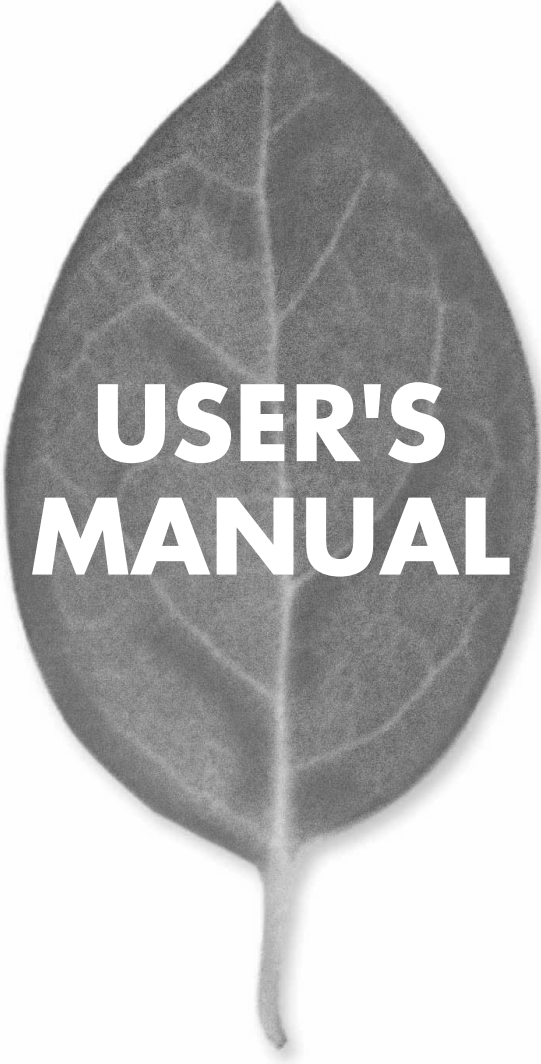




USER'S MANUAL

ワイヤレス 4ポート ブロードバンド ルータ

BLW-04FM

PLANEX COMMUNICATIONS INC.

USER'S MANUAL

ワイヤレス 4ポート ブロードバンド ルータ

BLW-04FM

本製品を安全にお使いいただくために

⚠ 警告

本製品をご利用の際は、以下の注意点を必ずお守りください。これらの事項が守られない場合、感電、火災、故障などにより使用者の重傷または死亡につながるおそれがあります。

分解・改造・修理はダメ！

各部のネジを外したり、カバーを開けたりしないでください。また製品内部の部品を改造・交換しないでください。感電や火災につながるおそれがあります。



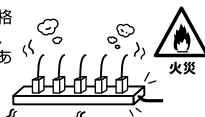
正しい電圧で使用して！

指定の電圧以外で使用すると誤動作や火災につながるおそれがあります。



タコ足配線・無理な配線はダメ！

コンセントや電源タップの定格を超えて電気製品を接続すると、発熱し火災につながる危険があります。



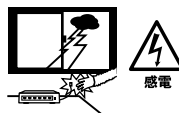
液体・異物はいれないで！

製品内部に液体や異物が入ると、ショートして火災が発生したり、誤動作したりする可能性があります。万一異物や液体が入ってしまった場合は、電源コードをコンセントから外して弊社サポートセンターまでご連絡ください。



雷のときはさわらないで！

雷が発生している間は、製品各部およびケーブルにさわらないでください。感電するおそれがあります。



通気口をふさがないで！

内部に熱がこもり、誤動作や火災につながるおそれがあります。



電源コードをつけて移動しないで！

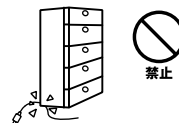
本製品を設置・移動する際は、必ず電源コードを前もって抜いておいてください。電源コードを入れたまま移動し、コードが傷つくと誤動作や火災につながるおそれがあります。



電源コードは傷つけないで！

火災・感電につながるおそれがありますので、電源やACアダプタのコードは絶対に加工したり傷つけたりしないでください。また以下の点を守ってコードを傷めないようにしてください。

- ◇コードの上に物を載せない
- ◇熱源の側にコードを置かない
- ◇コードをかじる癖のあるペットは隔離する（かじった部分からショートし発火する危険があります）



設置・保管場所をもう一度確認して！

以下の場所での本製品のご利用や保管は避けてください。これらの場所で設置・保管を行うと誤動作や感電、火災につながる危険があります。

- ・本製品が落下する可能性のある不安定な場所
- ・高温または多湿の場所（暖房器具の側も含む）
- ・急激に温度変化する可能性のある場所（結露のおそれがある所）
- ・静電気を帯びやすい場所（絨毯の上も含む）
- ・腐食性のガスが発生する場所

- ・直射日光のあたる場所
- ・振動の激しい場所
- ・ほこりの多い場所
- ・腐食性のガスが発生する場所



◎おねがい

本製品のお手入れ

- ・本製品のお手入れは乾いた柔らかい布で行ってください。
- ・汚れがひどい場合は、水で薄めた中性洗剤に布を浸し、かたく絞って本製品を拭いてください。また最後に乾いた布で軽く拭いてください。
- ・台所用中性洗剤以外は使わないでください。シンナーやベンジン、ワックス、アルコールが入ったものは使用できません。

このマニュアルの構成

本マニュアルはワイヤレス 4ポート ブロードバンドルータ bRoad Lanner BLW-04FMの概要および使用方法について説明します。本マニュアルの構成は以下のようになっています。

■ 必ずお読みください

第1章 はじめに

本製品の概要と各部の名称について説明します。必ずお読みください。

■ ご使用方法

第2章 ハードウェアの接続

本製品ハードウェアのADSL/ケーブルモデムおよびLANとの接続方法について説明します。必ずお読みください。

第3章 コンピュータの設定

本製品を使用したインターネットへのアクセスと本製品のWEBブラウザからの設定に必要なコンピュータの設定方法について説明します。

第4章 インターネット接続設定

本製品のインターネットへの接続設定について説明します。

第5章 ワイヤレスLANアクセスポイント

本製品の無線LANアクセスポイント機能を使用する方法について説明します。

第6章 詳細設定

本製品のDHCPサーバ機能やローカルサーバ機能等のより詳しい機能の設定の方法について説明します。

■ 付録

付録A トラブルシューティング

「トラブルかな？」と思われる場合の対応方法について説明します。

付録B デフォルト設定

本製品の工場出荷時のデフォルト設定について説明します。

付録C 仕様

本製品の製品仕様です。

● マニュアル内の表記について

本マニュアル内では製品の名称を本製品と表記します。区別が必要な場合は製品型番で表記します。

● 記載の会社名および製品名は各社の商標または登録商標です。

目次

本製品を安全にお使いいただくために	2
-------------------	---

第1章 はじめに

1.概要	7
2.特長	8
3.梱包内容の確認	9
4.各部の名称	10
5.対応機器	13
6.設定の初期化	14

第2章 ハードウェアの接続

1.設置場所について	15
2.無線LAN PCカードの装着	16
3.設置	17
4.WAN側ポートにADSL/ケーブルモデムを接続する	18
5.LAN側ポートへのコンピュータの接続	19
6.電源の接続	20
7.接続の確認	21

第3章 コンピュータの設定

1.Windows 95/98/Me	23
2.Windows 2000	27
3.Windows XP	31
4.Macintosh	34

第4章 インターネット接続設定

1.インターネット接続方法の確認	35
2.PPPoE接続の設定	37
3.DHCP接続の設定	45
4.固定IP接続の設定	52

第5章 ワイヤレスLANアクセスポイント

1.ワイヤレスLANアクセスポイントについて	59
2.ワイヤレスLANクライアントの設定	60

第6章 詳細設定

1.概要	67
2.管理者パスワードの設定	69
3.LANポートの設定	70
4.ワイヤレスLAN設定	73
5.PCデータベースの作成	78
6.ローカルサーバ機能	82
7.バーチャルコンピュータ機能	87
8.特殊アプリケーション	90
9.アクセス制限	94
10.URLフィルタ	102
11.ファイアウォール設定	105
12.VPNパススルー設定	108
13.ログ機能の設定	110
14.UPnP（ユニバーサルプラグアンドプレイ）	112
15.ルーティング設定	114
16.DMZ機能による複数グローバルIPアドレス接続の設定	116
17.VLAN（バーチャルLAN）	119
18.MACアドレスの変更	120
19.リモート管理設定	121
20.Dynamic DNS設定	122
21.ステータス表示	124
22.ファームウェアのアップデート	126
付属A トラブルシューティング	127
付属B デフォルト設定	131
付属C 仕様	133
ユーザー登録について	142
弊社へのお問い合わせ	143

はじめに

1 概要

本製品は、ADSLおよびCATV（ケーブルTV）接続を使ったインターネット接続に対応したブロードバンドルータです。NAT/IPマスカレード（NAPT）機能によって、1つのIPアドレスを複数のコンピュータで共有し、同時にインターネットにアクセスできます。本製品は無線LAN機能を装備しており、無線アクセスポイントとしても使用可能です。本製品はWEBブラウザによって、簡単にセットアップできます。

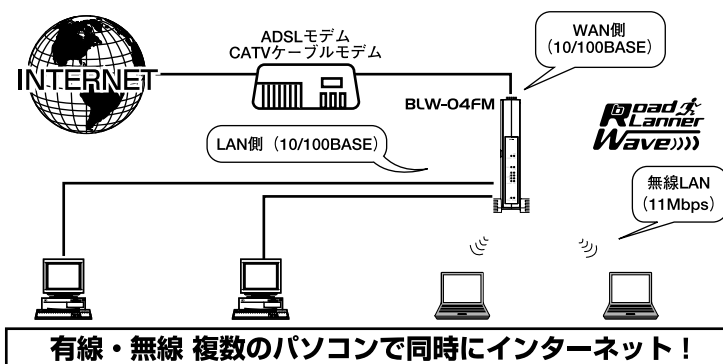


図1-1 bRoad Lanner接続図



注意

プロバイダによっては本製品のようなルータの使用や複数のコンピュータからのアクセスを制限している場合があります。プロバイダとのご契約内容についてご確認ください。

2 特長

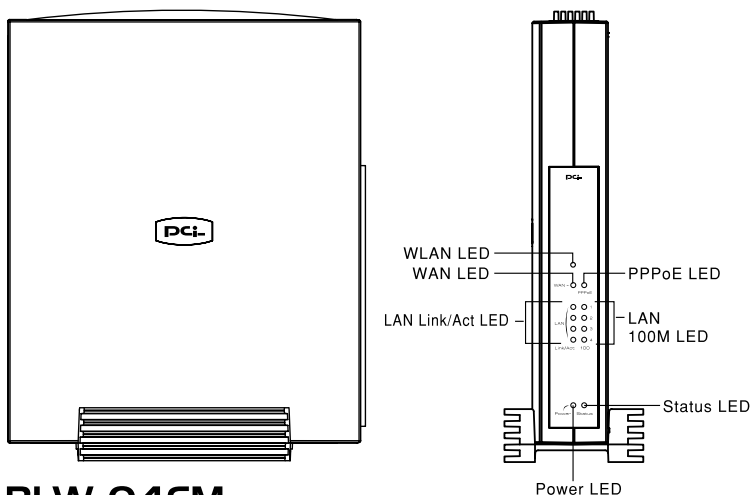
- MIPS 32bitプロセッサによる高速ルーティング
- ADSL、CATV接続などのWAN回線に対応
- NAT/IPマスカレード機能によって1つのIPアドレスを複数のコンピュータで共有できます
- WAN側に100BASE-TX/10BASE-T自動認識に対応したRJ-45 STPポートを1ポート装備
- LAN側に100BASE-TX/10BASE-T自動認識、Auto MDI/MDI-Xに対応した4ポートスイッチングハブを内蔵
- 無線LAN機能を装備、11Mbps無線アクセスポイントとして使用可能
- WAN側ポートはDHCPクライアントに対応
- LAN側ポートはDHCPサーバに対応（最大253クライアントまで割り当てることができます）
- 無線部はWEP、ESS-IDおよびMACアドレスフィルタによるセキュリティに対応
- DNSリレー機能に対応
- ローカルサーバ機能によってTCP/UDPプロトコルのポート番号ごとに、LAN側のコンピュータにインターネットからアクセスできます
- バーチャルコンピュータ機能によって、LAN側のコンピュータにインターネットからアクセスできます
- 簡易ファイアウォール機能を装備、インターネットからの攻撃を検出し防御します
- フィルタ機能を装備、LAN側コンピュータのインターネットへのアクセスを制限できます
- WAN側の接続方法は、通常接続のほかPPPoE接続に対応しています
- 複数のグローバルIPアドレスを使用するUnnumbered接続に対応
- LAN側ポートは最高4グループまでのポートベースVLAN機能に対応
- ログ機能に対応、記録したログはE-MailおよびSyslogサーバに送信可能
- WEBブラウザから設定できます
- UPnP（ユニバーサルプラグアンドプレイ）機能に対応
- Dynamic DNS（dyndns.org）サービスに対応

パッケージに以下の付属品が含まれていることを確かめてください。

- BLW-04FM本体
- 無線LAN PCカード（本体取り付け用）
- ACアダプタ
- 縦置き用スタンド
- ツイストペアケーブル（ストレートタイプ：1m）1本
- ショートコード1本
- このユーザーズマニュアル
- 保証書（ユーザーズマニュアルの最後にあります）

不足品があるときは、販売店または弊社テクニカルサポートまでご連絡ください。

■本体前面



BLW-04FM

図1-2 BLW-04FM本体前面

「Power LED」

本製品に電源が供給されているときに点灯します。

「Status LED」

本製品の起動時とエラー発生時に点灯します。

「LAN Link/Act LED」

LAN側ポートのリンクが確立しているときに点灯します。また、ポートがデータの送受信中には点滅します。

「LAN 100M LED」

ポートのリンクが、100Mで確立しているときに点灯します。

「WAN LED」

WAN側ポートのリンクが確立しているときに点灯します。また、ポートがデータの送受信中には点滅します。

「WLAN LED」

無線LAN機能が正常に動作しているときに点灯します。

「PPPoE LED」

WAN側ポートでPPPoE接続が確立しているときに点灯します。

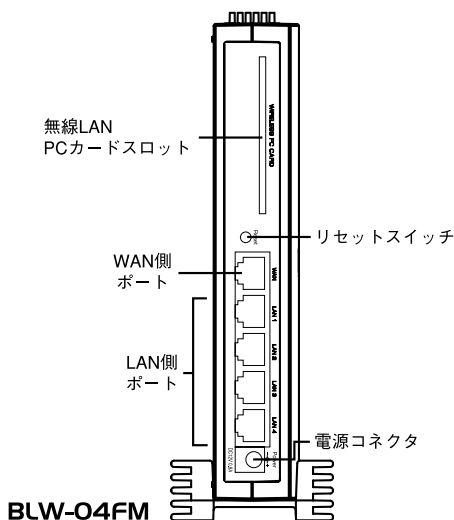


図1-3 BLW-04FM本体背面

「無線LAN PCカードスロット」

付属の無線LAN PCカードを装着するためのスロットです。

「WAN側ポート」

本製品をADSLまたはケーブルモデムと接続するためのRJ-45 STPポートです。

「LAN側ポート」

本製品にコンピュータを直接接続するためのRJ-45 STPポートです。

「リセットスイッチ」

本製品を再起動するときや、本製品の設定を工場出荷時の状態に戻すときに使います。

「電源コネクタ」

付属のACアダプタを接続するための電源コネクタです。

■本体裏面

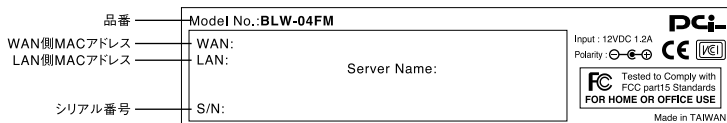


図1-4 BLW-04FM本体裏面

「品番」

本製品の製品型番です。

「シリアル番号」

本製品のシリアルナンバーです。製品外箱に記載されているものと同じ番号です。ユーザ登録時に必要となります。また、製品故障時などにサポートを受けるときにも必要になります。

「LAN側MACアドレス」

本製品のLAN側ポートのMACアドレス（物理アドレス）です。

「WAN側MACアドレス」

本製品のWAN側ポートのMACアドレス（物理アドレス）です。プロバイダによってはADSL/ケーブルモデムに接続する機器のMACアドレスの申請が必要なことがあります。そのときはこのWAN側ポートのMACアドレスをプロバイダに申請してください。

■コンピュータ機器

本製品は、以下のいずれかのコンピュータに対応しています。

◎イーサネット（有線）通信を使用する場合

- Windows 95/98/Me、Windows 2000、Windows XPを搭載し、Ethernet（RJ-45）ポートを装備したコンピュータ
- TCP/IPが利用可能なOS（Mac OS、各種UNIX等）を搭載し、Ethernet（RJ-45）ポートを装備したコンピュータ

◎ワイヤレス（無線）通信を使用する場合

- Windows 95/98/Me、Windows 2000、Windows XPを搭載し、IEEE802.11/IEEE802.11bに準拠した無線LANカードもしくは無線LAN 通信機能を装備したコンピュータ
- AirMac無線LANカードを装備したMacintoshコンピュータ

■ネットワーク機器

本製品では、以下のネットワーク機器が必要となります。

- ツイストペアケーブル（本製品に接続するコンピュータの台数分）

■ADSL/ケーブルモデム

本製品は、以下のADSL/ケーブルモデムに対応しています。

- RJ-45（LAN）ポートを装備した外付ADSLモデム
- RJ-45（LAN）ポートを装備した外付ケーブルモデム

6 設定の初期化

IPアドレスやパスワードを忘れてしまったときや、間違った設定をしてしまい設定画面にアクセスできなくなったときなどに設定の初期化が必要になることがあります。



注意

設定の初期化を行うと、LAN側/WAN側ポートの設定や、フィルタ設定等すべての設定が初期化されます。初期化を実行する前に、本当に初期化を行っても問題がないかを確認してください。

1. 本製品の設定の初期化は、以下の手順で行ってください。
2. 本製品の電源をOFFにしてください。
3. 本製品背面のリセットスイッチを先のとがったペンなどで押したまま電源をONにしてください。
4. 約20秒間リセットスイッチを押したままにしてください。
5. リセットスイッチを離します。本製品のすべての設定が初期化されます。

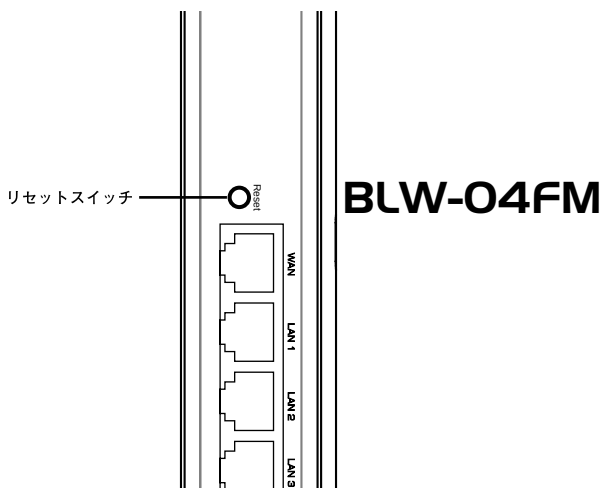


図1-5 リセットスイッチ

ハードウェアの接続

本

章では、本製品とADSL/ケーブルモデム、コンピュータとの接続手順について説明します。

1

設置場所について

本製品を設置する際には必ず以下の点をお守りくださいますようお願いいたします。

- 湿気の多い場所に設置しないでください。
- チリやほこりの多い場所には設置しないでください。
- 直射日光のあたる場所や温度の高い場所には設置しないでください。
- 内部に熱がこもる原因となりますので、周囲にはなるべく空間を空けてください。



注意

通風口にほこりなどがたまると内部に熱がこもる原因となります。定期的に点検を行い、ほこりがたまっているようでしたら掃除機等でほこりを取り除くようにしてください。

2 無線LAN PCカードの装着

付属の無線LAN PCカードを本体背面の無線LAN PCカードスロットに挿し込んでください。

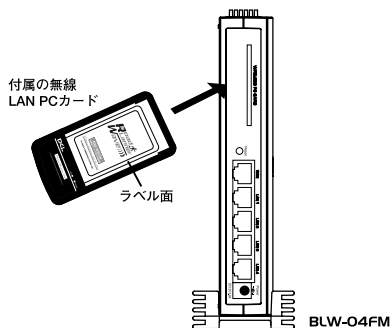


図2-1無線LAN PCカードの装着



注意

必ず付属の無線LAN PCカードを使用してください。

3 設置

本製品は、デスクトップ上などの平らな場所に設置して使ってください。

■縦置きする場合

本体を付属の縦置き用スタンドに図のようにセットしてください。

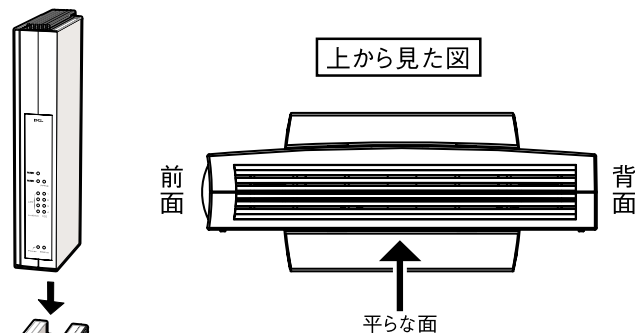


図2-2 縦置き

■横置きする場合

図のように本体の平らな面が下になるように設置して下さい。

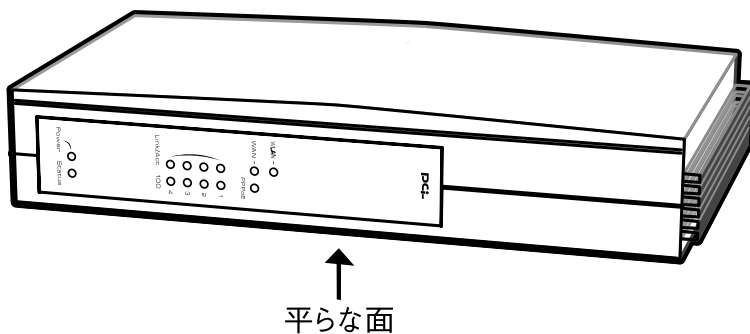


図2-3 横置き

4 WAN側ポートにADSL/ケーブルモデムを接続する

1. ADSL/ケーブルモデムの電源を切ってください。
2. 本製品付属のツイストペアケーブルで、本製品背面のWAN側ポートとADSL/ケーブルモデムのRJ-45ポートを接続します。

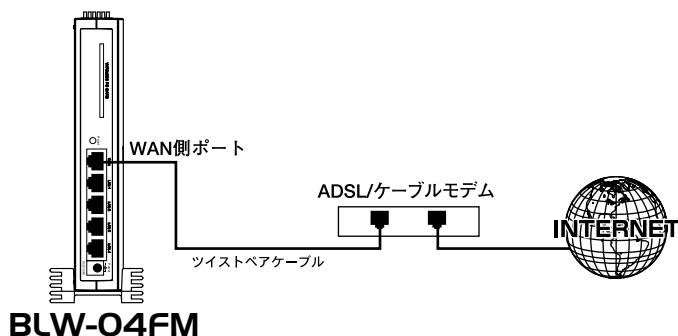


図2-4 ADSL/ケーブルモデムとの接続



注意

本製品のWAN側ポートはMDIポートになっています。また、本製品付属のツイストペアケーブルはストレートタイプです。ご利用になっているADSL/ケーブルモデムのポートがMDIポートのときはクロスオーバータイプのツイストペアケーブルを使用してください。

5 LAN側ポートへのコンピュータの接続

1. ツイストペアケーブルの一端を本製品のLAN側ポートに接続します。本製品のLAN側ポートは結線のタイプを自動認識するAuto MDI/MDI-Xに対応しています。コンピュータを接続するツイストペアケーブルはストレートタイプ、クロスオーバータイプのどちらでも使用できます。
2. ツイストペアケーブルのもう一端をコンピュータのRJ-45ポートに接続します。

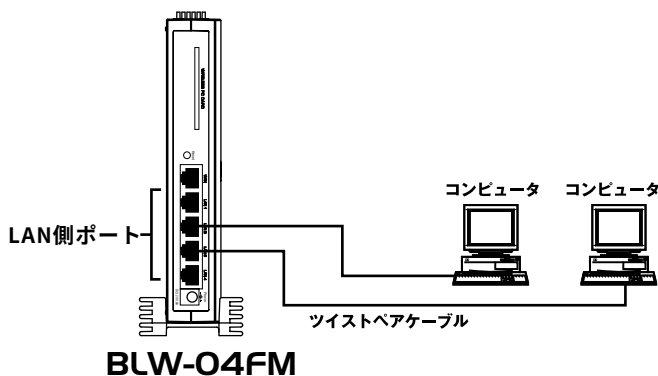


図2-5 コンピュータを接続

6 電源の接続

1. ADSL/ケーブルモデムの電源を入れます。
2. 付属のACアダプタを本製品の電源コネクタに接続します。
3. ACアダプタをAC100Vコンセントに接続します。スペースの問題でACアダプタをコンセントに直接接続できないときは付属のショートコードをお使いください。
4. コンピュータの電源を入れてください。
5. 21ページの接続の確認に進んでください。

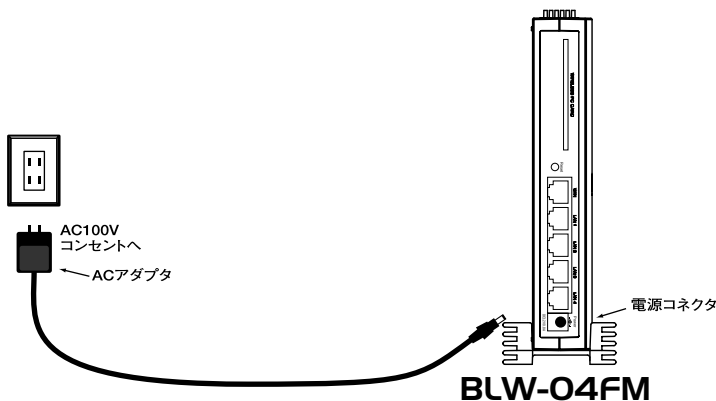


図2-6 電源の接続



注意

ACアダプタは必ず付属のものを使用してください。付属以外のACアダプタの使用は、製品の故障、誤動作等の原因となります。付属以外のACアダプタを使用した場合の故障は保証の範囲外となります。

これまでの接続を行い本製品の電源を入れると本製品のPOWER、WAN、LAN Link/Act、WLANの各LED が点灯します。これらのLEDが点灯しないときは以下の点についてお確かめください。

◎POWER LED

- ・本製品付属のACアダプタを使っていますか？
- ・ACアダプタが本製品背面の電源コネクタにしっかりと接続されていますか？
- ・ACアダプタはAC100Vコンセントにしっかりと接続されていますか？

◎WAN LED

- ・ツイストペアケーブルの両端はそれぞれ、本製品背面のWAN側ポートおよびADSL/ケーブルモデムのRJ-45ポートにしっかりと接続されていますか？
- ・ADSL/ケーブルモデムの電源は入っていますか？
- ・使用しているツイストペアケーブルのタイプは間違っていないですか？

◎LAN Link/Act LED

- ・ツイストペアケーブルの両端はそれぞれ、本製品背面のLAN側ポートおよびコンピュータのRJ-45ポートにしっかりと接続されていますか？
- ・コンピュータの電源は入っていますか？

◎WLAN LED

- ・本体背面の無線LAN PCカードスロットに付属の無線LAN PCカードがしっかりとセットされていますか？

コンピュータの設定

本

章では本製品を使ったインターネットへのアクセスとWEBブラウザから設定するために必要なコンピュータの設定手順について説明します。コンピュータの設定を開始する前に、第2章「ハードウェアの接続」を参照して本製品とADSL/ケーブルモデム、コンピュータの接続を完了させておいてください。

1

Windows 95/98/Me

1. コンピュータにネットワークアダプタがインストールされ、正常に認識されていることを確かめてください。ネットワークアダプタがインストールされていないときは、ネットワークアダプタのインストールを行ってください。

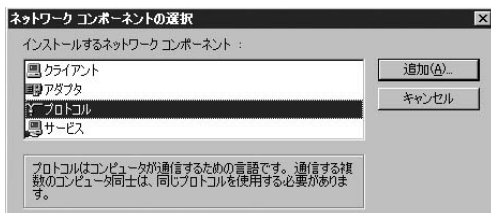
3

コンピュータの設定

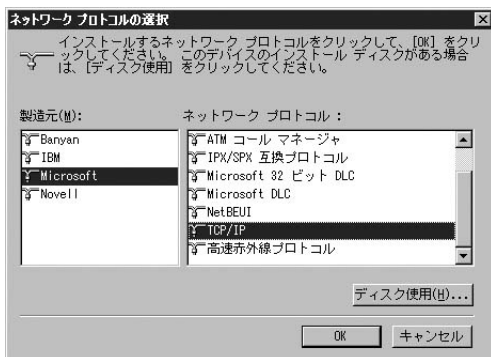
2. コンピュータにTCP/IPプロトコルがインストールされていることを確かめます。「スタート」メニューから「設定」→「コントロールパネル」→「ネットワーク」と選択します。「現在のネットワーク構成」の欄に「TCP/IP」が表示されているか確かめてください。インストールされているときは手順5に進んでください。



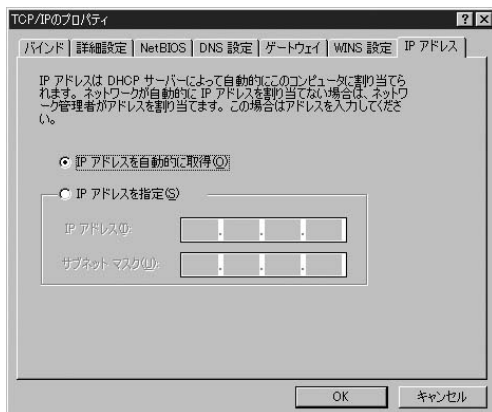
3. インストールされていないときは「追加」ボタンをクリックし、「インストールするネットワークコンポーネント」から「プロトコル」を選択して「追加」ボタンをクリックします。



4. ネットワークプロトコルの選択で「製造元」に「Microsoft」を選択し、「ネットワークプロトコル」には「TCP/IP」を選択して「OK」ボタンをクリックします。ネットワークのプロパティの画面に戻ります。

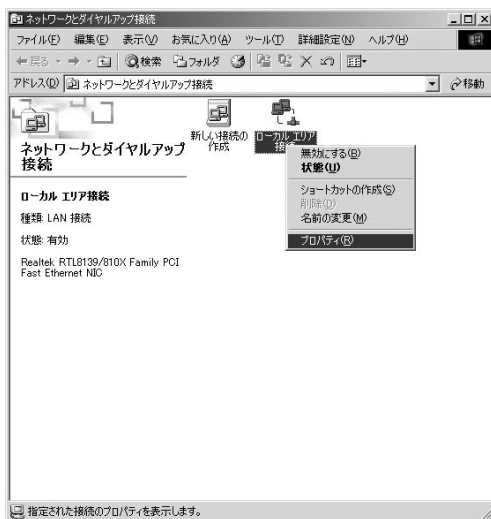


5. 「TCP/IP」を選択し「プロパティ」ボタンをクリックします。「TCP/IPのプロパティ」画面が表示されるので、「IPアドレス」タブをクリックします。画面内の「IPアドレスを自動的に取得」オプションを選択し、コンピュータを再起動します。



2 Windows 2000

1. コンピュータにネットワークアダプタがインストールされ、正常に認識されていることを確かめてください。ネットワークアダプタがインストールされていないときは、ネットワークアダプタのインストールを行ってください。
2. コンピュータにTCP/IPプロトコルがインストールされていることを確かめます。「スタート」メニューから「設定」→「コントロールパネル」→「ネットワークとダイヤルアップ接続」と選択します。
3. 「ローカルエリア接続」アイコンを右クリックし、表示されるメニューから「プロパティ」を選択します。



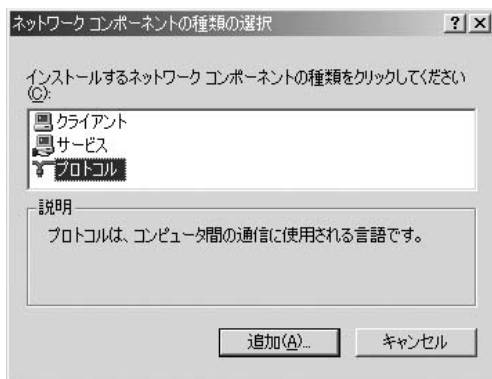
3

コンピュータの設定

4. 「ローカルエリア接続のプロパティ」に「インターネットプロトコル (TCP/IP)」が表示されているか確かめてください。インストールされているときは手順7に進んでください。



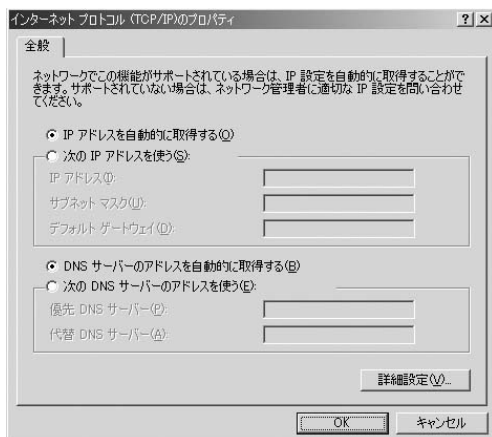
5. インストールされていないときは「インストール」ボタンをクリックし、「ネットワークコンポーネントの種類の選択」から「プロトコル」を選択して「追加」ボタンをクリックします。



6. 「ネットワークプロトコルの選択」で「インターネットプロトコル (TCP/IP)」を選択して「OK」ボタンをクリックします。ローカルエリア接続のプロパティの画面に戻ります。



7. 「インターネットプロトコル (TCP/IP)」を選択し「プロパティ」ボタンをクリックします。「インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティ」画面が表示されるので、「IP アドレスを自動的に取得する」と「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」の2つのオプションを選択し「OK」ボタンをクリックします。



8. 「ローカルエリア接続のプロパティ」の画面に戻るのを閉じてください。

3 Windows XP

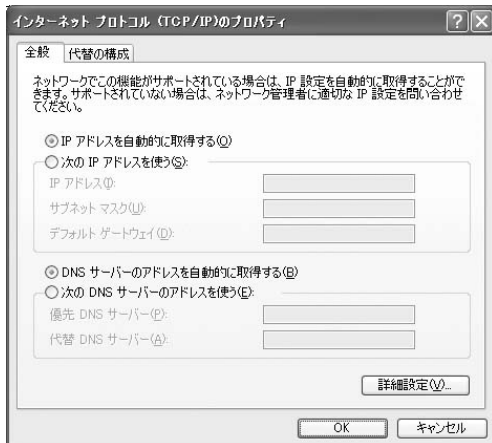
1. コンピュータにLANアダプタがインストールされ、正常に認識されていることを確かめてください。LANアダプタがインストールされていないときは、LANアダプタのインストールを行ってください。
2. コンピュータでTCP/IPプロトコルが有効になっていることを確かめます。「スタート」メニューを開き、「マイコンピュータ」を選択します。表示された「マイコンピュータ」ウィンドウの左側の「その他」の中にある「マイネットワーク」を右クリックし、メニューから「プロパティ」を選択します。「ネットワーク接続」ウィンドウが表示されます。



3. 「ローカルエリア接続」アイコンを右クリックして表示されるメニューから「プロパティ」を選択します。「ローカルエリア接続のプロパティ」ウィンドウが表示されます。「この接続は次の項目を使用します」の欄の「インターネットプロトコル (TCP/IP)」の左側のチェックボックスがチェックされているか確かめてください。チェックされていないときはチェックします。



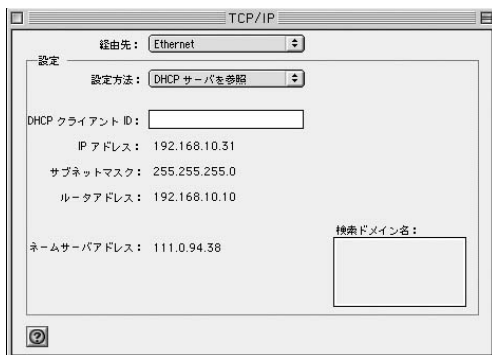
4. 「インターネットプロトコル (TCP/IP)」を選択し「プロパティ」ボタンをクリックします。「インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティ」画面が表示されるので、「全般」タブをクリックします。画面内の「IPアドレスを自動的に取得する」と「DNSサーバのアドレスを自動的に取得する」のオプションを選択し、「OK」ボタンをクリックします。



5. 「ローカルエリア接続のプロパティ」ウィンドウに戻ったら、「閉じる」ボタンをクリックします。

4 Macintosh

1. アップルメニューから「コントロールパネル」→「TCP/IP」と選択します。
2. TCP/IPの設定ウィンドウの「設定方法」を「DHCPサーバを参照」に設定します。



3. TCP/IPの設定ウィンドウを閉じて、Macintoshを再起動します。

インターネット接続設定

こ

の章では本製品のインターネットへの接続手順について説明します。ここでは、必要最小限の設定だけで、本製品を経由したインターネットへのアクセスを行えるようにします。インターネット接続設定を開始する前に、第2章「ハードウェアの接続」および第3章「コンピュータの設定」を済ませておいてください。本製品をより詳細に設定したいときは、第5章「詳細設定」を参照します。

4

インターネット接続設定

1

インターネット接続方法の確認

本製品のインターネット接続の設定は、お客様が契約しているプロバイダとのサービス内容によって異なります。
次の中からお客様のプロバイダとの契約内容にあった接続方法を選択して、本製品の設定を行ってください。

■PPPoE接続

NTT東日本株式会社/NTT西日本株式会社の「フレッツ・ADSL」および「Bフレッツ」や、東京めたりっく通信株式会社の「G-One (旧Single)」サービスなどで採用されている、PPPoEプロトコルを使う接続方法です。接続にはユーザ名（アカウント名）とパスワードが必要です。

→37ページの「4-2 PPPoE接続の設定」に進んでください。

■DHCP接続

多くのケーブルテレビインターネット接続サービスや、ヤフー株式会社の「Yahoo! BB」などのサービスで採用されている、DHCPプロトコルを使ってIPアドレスが自動に割り当てられる方法です。

→45ページの「4-3 DHCP接続の設定」に進んでください。

■固定IPアドレス接続

プロバイダから固定のIPアドレスが割り当てられるサービスでの接続方法です。

→52ページの「4-4 固定IP接続の設定」に進んでください。



注意

本製品をJ-COM@NetHomeまたはJ-COM・ZAQでご使用になるときは、J-COM@NetHomeまたはJ-COM・ZAQへの、ルータ使用の登録が必要です。(2002年8月現在)

2 PPPoE接続の設定



注意

- WEBブラウザから本製品にアクセスするには、フレーム表示に対応したブラウザを使用する必要があります。Netscape 6.0以降またはMicrosoft Internet Explorer 5.0 以降のご使用を推奨します。
- ブラウザでプロキシを使用する設定がされていると設定画面が表示されません。Internet Explorerでは「表示 (ツール)」→「インターネットオプション」→「接続」→「LANの設定」、Netscapeでは「編集」→「設定」→「詳細」にプロキシの設定項目があります。プロキシを使用しないように設定するか、もしくはプロキシの詳細設定画面で「次で始まるドメイン (アドレス) にはプロキシを使用しない」の欄に本製品のLAN側ポートのIPアドレスを入力してください。

1. コンピュータが起動したら、WEBブラウザを起動します。
2. WEBブラウザのURLを入力する欄 (Netscape では「場所」、Internet Explorerでは「アドレス」) に本製品のIPアドレス (デフォルト値は「192.168.1.1」) を入力し、Enterキーを押します。

4

インターネット接続設定

3. 設定画面にログインするためのログイン画面が表示されます。工場出荷時のパスワードは「password」です。パスワード欄に「password」と入力して、「OK」ボタンをクリックします。



4. 本製品の設定画面が表示されます。画面左側のメニューから「簡単インターネット設定」をクリックします。



5. 「簡単インターネット設定」画面が表示されます。「次へ >」をクリックします。



6. WAN設定画面が表示されるので「PPPoE接続」を選択して「次へ」ボタンをクリックします。



4

インターネット接続設定

7. PPPoE接続の設定画面が表示されます。次の項目を入力して「次へ >」ボタンをクリックします。

Setup - Microsoft Internet Explorer

ファイル 編集 表示 拡張子 検索 ヘルプ

アドレス http://192.168.1.1/

PC-L bRoad Lanner Wave bRoad Lanner smart Manager

メニュー

- 簡単インターネット設定
- ローカルネットワーク設定
- ワイヤレスLAN設定
- アドバンスド設定
- ステータス表示
- ファームウェアアップデート
- ログアウト
- ホーム

簡単インターネット設定

PPPoE接続のための接続ユーザ名(アカガク名)と接続パスワードを入力してください。

接続ユーザ名

接続パスワード

サービス名

自動接続 ☒ 接続する ☒

接続する 分

MSS(Maximum Segment Size) 1472 (数値変更の必要はありません)

< 戻る 次へ > キャンセル

ページが表示されました

「接続ユーザ名」

プロバイダから指定されたPPPoE接続のユーザ名（アカウント名）を入力します。

「接続パスワード」

プロバイダから指定されたPPPoE接続のパスワードを入力します。

「サービス名」

通常は空欄ままでかまいません。プロバイダからサービス名の指定があるときのみ、指定されたサービス名を入力してください。

「自動接続」

「有効にする」をチェックすると、PPPoE接続が切断されているときにLAN側からインターネットへの通信が発生すると自動でPPPoE接続をします。

「自動切断」

「有効にする」をチェックすると、設定した時間、インターネットへの通信がない状態が続くとPPPoE接続を自動切断します。自動切断を無効に設定すると、セッションキープアライブ機能が働くようになります。この場合本製品の起動時やPPPoE接続が切断された後に自動的に再接続を行います。設定可能な範囲は 1～99（分）です。

「MSS（Maximum Segment Size）」

PPPoE接続時のMSS（Maximum Segment Size）値を変更します。通常は工場出荷時の設定「1414」を変更する必要はありません。不用意に変更すると通信ができなくなったり、特定のサイトやアプリケーションが使用できなくなったり、パフォーマンスが著しく低下したりするので注意してください。設定可能な範囲は 536～1452 です。MSS値に40を加えた値がMTU値になります。

**注意**

NTT 東日本株式会社/NTT 西日本株式会社の「フレッツ・ADSL」「B フレッツ」のときは、必ず「1414」以下の値でご使用ください。

8. IPアドレスの設定画面が表示されます。通常、PPPoE接続では「自動取得」を選択します。固定のIPアドレスが割り当てられるPPPoE接続サービスの場合は、「固定IPアドレス割り当て」を選択して、次の項目を入力します。入力が終わったら「次へ>」ボタンをクリックします。



「IPアドレス」

プロバイダから指定されたIPアドレスを入力します。

複数のグローバルIPアドレスが割り当てられるサービスの場合は、一般的には割り当てられたグローバルIPアドレスの中から2番目のIPアドレスを設定します。詳しくは第6章「16.DMZ機能による複数グローバルIPアドレス接続の設定」を参照してください。

「DNSアドレス」

プロバイダから指定されたDNSサーバアドレスを入力します。DNSアドレスの指定がない場合は空欄のままでかまいません。

9. 設定終了の画面が表示されます。「インターネット接続のテストを行う」をチェックして「完了」ボタンをクリックします。
これまでの設定を保存し、インターネットに接続できるか確認を行います。「テスト結果」欄にテストの結果が表示されるので確認してください。
PPPoE接続が成功したら、「閉じる」ボタンをクリックしてください。
PPPoE接続が成功しないときは、ユーザ名、パスワードなどの設定に間違いがないか確かめてください。



注意

ブロードバインダから配布されるPPPoE接続ソフトウェアをコンピュータにインストールする必要はありません。インストールしてある場合は、アンインストールするか、そのソフトの自動接続機能を無効にしてください。

3 DHCP接続の設定



注意

- ・WEBブラウザから本製品にアクセスするには、フレーム表示に対応したブラウザを使用する必要があります。
Netscape 6.0以降またはMicrosoft Internet Explorer 5.0 以降のご使用を推奨します。
- ・ブラウザでプロキシを使用する設定がされていると設定画面が表示されません。Internet Explorerでは「表示(ツール)」→「インターネットオプション」→「接続」→「LANの設定」、Netscapeでは「編集」→「設定」→「詳細」にプロキシの設定項目があります。プロキシを使用しないように設定するか、もしくはプロキシの詳細設定画面で「次で始まるドメイン(アドレス)にはプロキシを使用しない」の欄に本製品のLAN側ポートのIPアドレスを入力してください。

1. コンピュータが起動したら、WEBブラウザを起動します。
2. WEBブラウザのURLを入力する欄（Netscape では「場所」、Internet Explorerでは「アドレス」）に本製品のIPアドレス（デフォルト値は「192.168.1.1」）を入力し、Enterキーを押します。

4

インターネット接続設定

3. 設定画面にログインするためのログイン画面が表示されます。工場出荷時のパスワードは「password」です。パスワード欄に「password」と入力して、「OK」 ボタンをクリックします。



ネットワーク パスワードの入力

ユーザー名とパスワードを入力してください。

サイト: 192.168.1.1

領域: NeedPassword

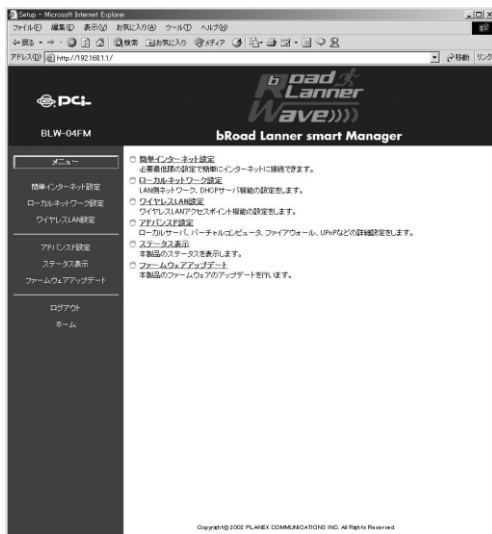
ユーザー名(U):

パスワード(P):

☐ このパスワードを保存する(S)

OK キャンセル

4. 本製品の設定画面が表示されます。画面左側のメニューから「簡単インターネット設定」をクリックします。



4

インターネット接続設定

5. 「簡単インターネット設定」画面が表示されます。「次へ >」をクリックします。



6. WAN設定画面が表示されるので「通常接続」を選択して「次へ」ボタンをクリックします。



7. ホスト名、ドメイン名、MACアドレスの設定画面が表示されます。通常は変更の必要はありません。これらの項目についてプロバイダから指定があるときだけ変更してください。入力が終わったら「次へ >」ボタンをクリックします。



「ホスト名」

プロバイダから指定されたホスト名を入力します。指定がないときは変更の必要はありません。

「ドメイン名」

プロバイダから指定されたドメイン名を入力します。指定がないときは空欄のままでかまいません。

「MACアドレス」

本製品の現在のWAN側ポートのMACアドレスが表示されます。プロバイダによってはインターネットに接続するPCのMACアドレスの登録が必要ことがあります。すでにPCのMACアドレスを登録しているときは登録済みのMACアドレスに変更することにより、プロバイダへの登録変更をすることなくご利用いただけます。

「出荷時設定」

本製品のWAN側ポートのMACアドレスを出荷時の設定に戻します。

「このPCからコピー」

本製品のWAN側ポートのMACアドレスに、現在設定するためにアクセスしているPCのMACアドレスをコピーできます。

**注意**

本製品をJ-COM@NetHomeでご使用になるときは、J-COM@NetHomeへのルータ使用の登録をしたうえで、「ホスト名」欄にJ-COM@NetHomeから指定されたコンピュータ名を設定してください。(2002年8月現在)

8. IPアドレスの設定画面が表示されます。「自動取得」を選択し、「次へ >」ボタンをクリックします。



4

インターネット接続設定

9. 設定終了の画面が表示されます。「インターネット接続のテストを行う」をチェックして「完了」ボタンをクリックします。
 これまでの設定を保存し、インターネットに接続できるか確認を行います。
 「テスト結果」欄にテストの結果が表示されるので確認してください。
 接続が成功したら、「閉じる」ボタンをクリックしてください。
 接続が成功しないときは、ホスト名、ドメイン名などの設定に間違いがないか確かめてください。



4 固定IP接続の設定



注意

- WEBブラウザから本製品にアクセスするには、フレーム表示に対応したブラウザを使用する必要があります。Netscape 6.0以降またはMicrosoft Internet Explorer 5.0 以降のご使用を推奨します。
- ブラウザでプロキシを使用する設定がされていると設定画面が表示されません。Internet Explorerでは「表示（ツール）」→「インターネットオプション」→「接続」→「LANの設定」、Netscapeでは「編集」→「設定」→「詳細」にプロキシの設定項目があります。プロキシを使用しないように設定するか、もしくはプロキシの詳細設定画面で「次で始まるドメイン（アドレス）にはプロキシを使用しない」の欄に本製品のLAN側ポートのIPアドレスを入力してください。

1. コンピュータが起動したら、WEBブラウザを起動します。
2. WEBブラウザのURLを入力する欄（Netscape では「場所」、Internet Explorerでは「アドレス」）に本製品のIPアドレス（デフォルト値は「192.168.1.1」）を入力し、Enterキーを押します。
3. 設定画面にログインするためのログイン画面が表示されます。工場出荷時のパスワードは「password」です。パスワード欄に「password」と入力して、「OK」 ボタンをクリックします。

ネットワーク パスワードの入力

ユーザー名とパスワードを入力してください。

サイト: 192.168.1.1

領域: NeedPassword

ユーザー名(U):

パスワード(P):

☐ このパスワードを保存する(S)

OK キャンセル

4. 本製品の設定画面が表示されます。画面左側のメニューから「簡単インターネット設定」をクリックします。



5. 「簡単インターネット設定」画面が表示されます。「次へ >」をクリックします。



6. WAN設定画面が表示されるので「通常接続」を選択して「次へ」ボタンをクリックします。



7. ホスト名、ドメイン名、MACアドレスの設定画面が表示されます。通常は変更の必要はありません。これらの項目についてプロバイダから指定があるときだけ変更してください。入力が終わったら「次へ >」ボタンをクリックします。



「ホスト名」

プロバイダから指定されたホスト名を入力します。指定がないときは変更の必要はありません。

「ドメイン名」

プロバイダから指定されたドメイン名を入力します。指定がないときは空欄のままでもかまいません。

「MACアドレス」

本製品の現在のWAN側ポートのMACアドレスが表示されます。プロバイダによってはインターネットに接続するPCのMACアドレスの登録が必要ことがあります。すでにPCのMACアドレスを登録しているときは登録済みのMACアドレスに変更することにより、プロバイダへの登録変更をすることなくご利用いただけます。

「出荷時設定」

本製品のWAN側ポートのMACアドレスを出荷時の設定に戻します。

「このPCからコピー」

本製品のWAN側ポートのMACアドレスに、現在設定するためにアクセスしているPCのMACアドレスをコピーできます。

8. IPアドレスの設定画面が表示されます。「固定IPアドレス割り当て」を選択して、次の項目を入力します。入力が終わったら「次へ>」ボタンをクリックします。



「IPアドレス」

プロバイダから指定されたIPアドレスを入力します。

「サブネットマスク」

プロバイダから指定されたサブネットマスクを入力します。

「ゲートウェイ」

プロバイダから指定されたゲートウェイアドレスを入力します。

「DNSアドレス」

プロバイダから指定されたDNSサーバアドレスを入力します。

9. 設定終了の画面が表示されます。「インターネット接続のテストを行う」をチェックして「完了」ボタンをクリックします。
これまでの設定を保存し、インターネットに接続できるか確認を行います。「テスト結果」欄にテストの結果が表示されるので確認してください。
接続が成功したら、「閉じる」ボタンをクリックしてください。
接続が成功しないときは、ホスト名、ドメイン名などの設定に間違いがないか確かめてください。



ワイヤレスLANアクセスポイント

本

章では本製品の無線LANアクセスポイント機能を使用する方法について説明します。

1 ワイヤレスLANアクセスポイントについて

本製品は、ワイヤレスLANネットワークと既存のイーサネットネットワークを接続するためのアクセスポイントとしても機能します。本製品を使用することで既存のイーサネットネットワーク資産を利用したワイヤレスLANネットワークをシームレスに構築することが可能です。本製品はIEEE802.11 およびIEEE802.11b に準拠し伝送速度は、11Mbps/5.5Mbps/2Mbps/1Mbpsに対応しています。またESSIDやWEP、MACアドレスフィルタなどの機能を使用する事によりより堅牢なセキュリティを保つことができます。

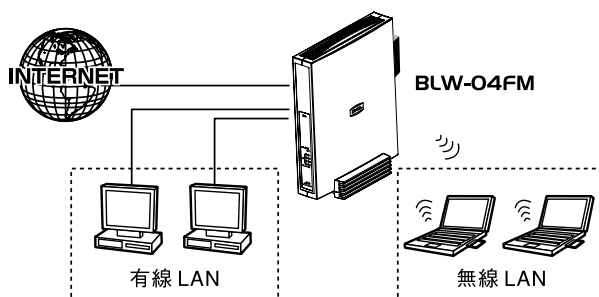


図5-1 ワイヤレスLAN構築例

5

ワイヤレスLANアクセスポイント

2 ワイヤレスLANクライアントの設定

本製品にはIEEE802.11bに準拠したほとんどのワイヤレスLANカードでアクセスすることが可能です。ここではWindows 98/98 Second Edition/Me上で、弊社製品GW-NS11Hを使用した場合を例にとって、アクセスポイントにアクセスする場合の設定方法を説明します。GW-NS11HのインストールについてはGW-NS11Hに付属のマニュアルを参照してください。

■WEPを使用しない場合の設定

1. 本製品のワイヤレスLANの設定を第6章「4.ワイヤレスLAN設定」を参照して下記のように設定してください。設定変更後、「設定」ボタンをクリックして設定を保存してください。

項目	設定	説明
ESS-ID	BLW04FM	ESS-IDによりワイヤレスLANグループが作成されます。 同じESS-IDを設定した機器同士でのみ通信できます。 任意の文字列を設定できます。ここでは例としてこの値を使用します。
WEP設定	WEP無効	WEPによる暗号化を行いません

表5-1 WEPを使用しない場合の設定



2. GW-NS11Hをインストールしたコンピュータから、「スタートメニュー」→「プログラム」→「GeoWave」→「GW-NS11H」→「GW-NS11H Utility」を選択してください。GW - NS11Hの設定ユーティリティが起動します。



3. 各設定項目を下記の通りに設定します。

タブ	項目	設定	説明
設定	ネットワーク名	BLW04FM	ESS-IDによりワイヤレスLANグループが作成されます。同じESS-IDを設定した機器同士でのみ通信できます。任意の文字列を設定できます。ここでは例としてこの値を使用します。
設定	ネットワークタイプ	AccessPoint	アクセスポイントを使用して通信するモードです。
暗号化	暗号	Disable	WEPによる暗号化を行いません。

表5-2 ネットワーク各項目設定



4. 「OK」 ボタンをクリックして、ユーティリティを終了させてください。

以上でWEPを使用しない場合の設定は完了です。

■40ビット（64ビット）WEPを使用する場合の設定

1. 本製品のワイヤレスLANの設定を行います。第6章「4.ワイヤレスLAN設定」を参照してください。各項目を下記のように設定してください。設定変更後、「設定」ボタンをクリックして設定を保存してください。

項目	設定	説明
ESS-ID	BLW04FM	ESS-IDによりワイヤレスLANグループが作成されます。 同じESS-IDを設定した機器同士でのみ通信できます。 任意の文字列を設定できます。ここでは例としてこの値を使用します。
WEP設定	40bit（64bit）WEP	40ビット（64ビット）WEPによる暗号化を行います。

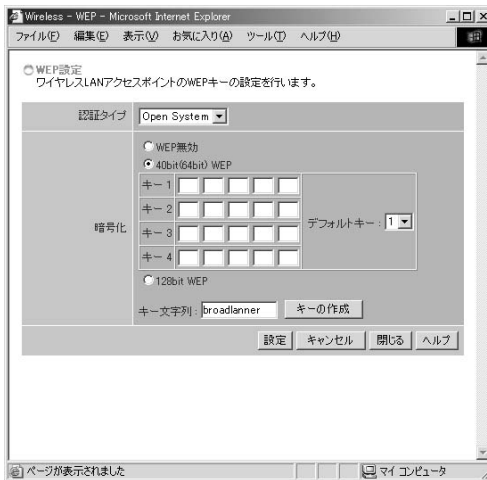
表5-3 WEPを使用する場合の設定



2. 本製品のWEPの設定を行います。「WEP設定」ボタンをクリックしてください。WEP設定画面が表示されるので、各項目を下記のように設定してください。設定変更後、「キーの作成」ボタンをクリックしてください。その後、「設定」ボタンをクリックして設定を保存してください。

項目	設定	説明
認証タイプ	Open System	GW-NS11Hの認証タイプである「Open System」に設定します。
暗号化	40bit (64bit) WEP	40ビット（64ビット）WEPによる暗号化を行います。
キー文字列	broadlanner	WEPキーを作成するためのキー文字列です。アクセスポイントと各ワイヤレスクライアントで同じキー文字列を設定します。任意の文字列を設定できます。ここでは例としてこの値を使用します。
デフォルトキー	1～4のどれか	暗号化に使用するデフォルトキーを設定します。

表5-4 WEPを使用する場合の設定



3. GW-NS11Hをインストールしたコンピュータから、「スタートメニュー」→「プログラム」→「GeoWave」→「GW-NS11H」→「GW-NS11H Utility」を選択してください。GW - NS11Hの設定ユーティリティーが起動します。



4. 各項目を下記の通りに設定します。

タブ	項目	設定	説明
設定	ネットワーク名	BLW04FM	ESS-IDによりワイヤレスLANグループが作成されます。同じESS-IDを設定した機器同士でのみ通信できます。任意の文字列を入れることができます。ここでは例としてこの値を使用します。
設定	ネットワークタイプ	AccessPoint	アクセスポイントを使用して通信するモードです。
暗号化	暗号	64bit	64ビット（40ビット）WEPによる暗号化を行います。
暗号化	キーワード入力	選択	キーワードによりWEPキーを自動作成します。
暗号化	キー文字列	broadlanner	WEPキーを作成するためのキー文字列です。アクセスポイントと各ワイヤレスクライアントで同じキー文字列を設定します。任意の文字列を設定できます。ここでは例としてこの値を使用します。
暗号化	WEP ON/OFF	キー1～キー4	暗号化に使用するデフォルトキーを設定します。

表5-5 WEPを使用する場合の設定



5. 「OK」 ボタンをクリックして、ユーティリティを終了させてください。

以上で40ビットWEPを使用した場合の設定は完了です。

詳細設定

こ

ここでは、WEBブラウザを使用して本製品の各機能の詳細な設定を行う手順を説明します。



注意

- WEBブラウザから本製品にアクセスするには、フレーム表示に対応したブラウザをご利用になる必要があります。Netscape 6.0以降またはMicrosoft Internet Explorer 5.0以降のご利用を推奨します。
- ブラウザでプロキシを使う設定になっていると設定画面が表示されません。Internet Explorerでは「表示（ツール）」→「インターネットオプション」→「接続」→「LANの設定」、Netscapeでは「編集」→「設定」→「詳細」にプロキシの設定項目があります。プロキシを使わない設定にするか、もしくはプロキシの詳細設定画面で「次で始まるドメイン（アドレス）」にはプロキシを使用しない」の欄に本製品のLAN側ポートのIPアドレスを入力します。

1

概要

本製品の設定画面には以下の手順でアクセスしてください。

1. コンピュータが起動したら、WEBブラウザを起動します。
2. WEBブラウザのURLを入力する欄（Netscape では「場所」、Internet Explorerでは「アドレス」）に本製品のLAN側ポートのIPアドレスを入力し、Enterキーを押します。工場出荷時や本製品の初期化後のLAN側ポートのIPアドレスは「192.168.1.1」です。

3. 設定画面にログインするためのパスワード入力画面が表示されます。パスワード欄にパスワードを入力して、「OK」ボタンをクリックします。工場出荷時や本製品の初期化後のパスワードは「password」です。



ネットワーク パスワードの入力

ユーザー名とパスワードを入力してください。

サイト: 192.168.1.1

領域: NeedPassword

ユーザー名(U):

パスワード(P):

☐ このパスワードを保存する(S)

OK キャンセル

4. 本製品の設定画面が表示されます。



2 管理者パスワードの設定

本製品の管理者パスワードは工場出荷時は「password」に設定されています。本製品のご利用に際してはセキュリティ上、管理者パスワードの変更を推奨します。管理者パスワードを変更するには、画面左側のメインメニューの「アドバンスド設定」をクリックして表示されるアドバンスド設定メニューから「パスワード設定」をクリックします。



「新しいパスワード」

新しいパスワードを入力します。パスワードの最大長は半角文字で9文字です。

「新しいパスワードの確認」

確認のため新しいパスワードをもう一度入力します。

設定が終了したら、「設定」ボタンをクリックします。

3 LANポートの設定

本製品のLANポートのIPアドレス設定とDHCPサーバ機能の設定を行います。LANポートを設定するには、画面左側のメインメニューから「ローカルネットワーク設定」をクリックします。



6

詳細設定

「IPアドレス」

LAN側ポートに設定するIPアドレスを入力します。デフォルトでは「192.168.1.1」に設定されています。

「サブネットマスク」

LAN側ポートのサブネットマスクです。デフォルトでは「255.255.255.0」に設定されています。

「DHCPサーバ」

DHCPサーバ機能を使うと、LAN側のコンピュータに自動でIPアドレスが割り当てられます。これにより、LAN側ネットワークのコンピュータにIPアドレスを手動で設定する必要がなくなります。

DHCPサーバ機能を使うときは「有効にする」をチェックします。DHCPサーバ機能を使わないときは「有効にする」のチェックを外します。

「割り当て開始IPアドレス」

DHCPサーバ機能によって、割り当てるIPアドレス範囲の開始アドレスを設定します。「.」（ドット）で区切られた4つの数字の内の最後の1つを入力します。例えば「192.168.1.200」を設定するときは「200」を入力します。

「割り当て終了IPアドレス」

DHCPサーバ機能によって、割り当てるIPアドレス範囲の終了アドレスを設定します。

設定が終了したら「設定」ボタンをクリックします。

■DHCPサーバによる固定IPアドレス割り当て

本製品のDHCPサーバからLAN側の特定のコンピュータに対して、常に固定のIPアドレスを割り当てるには、「PCデータベース」機能から設定をします。詳細は「6-5 PCデータベースの作成」を参照してください。



注意

- 1.DHCPサーバで割り当てるIPアドレス範囲には本製品のLAN側ポートのIPアドレスが含まれないように設定してください。
- 2.DHCPサーバ機能を使用しないときは、LAN 側ネットワーク上のすべてのコンピュータのIPアドレスを手動で設定してください。

4 ワイヤレスLAN設定

本製品の無線LANアクセスポイント機能の設定を行います。無線LANアクセスポイント機能の設定をするには、画面左側のメインメニューから「ワイヤレスLAN設定」をクリックします。



●一般設定

「周波数ドメイン」

本製品の使用周波数ドメインが表示されます。本製品はここで表示されている周波数ドメイン以外で使用することはできません。

「ステーション名」

本製品のステーション名が表示されます。

「ESS-ID」

ESS-ID (Extended Service Set Identifier) を設定すると、同じESS-IDを設定した無線ステーションのみ本製品にアクセスできるようになります。ESS-IDは無線通信を行うすべての機器で同じ値に設定する必要があります。ESS-IDは半角英数字で32文字以内で入力してください。

「チャンネル」

無線ネットワークで使用するチャンネル番号を入力してください。切断が頻繁に発生したり、データ転送速度が極端に遅い場合は、電波が干渉を起している可能性があります。このような場合はチャンネル番号を変更してみてください。

●WEP 設定

WEP機能とは無線で通信を行う機器同士で共通の暗号キーを使用して、送受信データを暗号化しデータのセキュリティを確保するための機能です。セキュリティ上、WEP機能は常に有効に設定してご使用になることを推奨します。WEP機能の設定を行うには「WEP設定」ボタンをクリックしてください。WEP設定画面が表示されます。



「認証タイプ」

通常は「自動」を選択します。「自動」を選択して通信が行えないときは、ご使用のワイヤレスLANカードにあわせて「Open System」または「Shared Key」を選択します。どちらのタイプを選択するかは、ご使用のワイヤレスLANカードのマニュアルを参照してください。

「暗号化」

「WEP無効」を選択するとWEP機能によるデータの暗号化を行いません。「40bit (64bit) WEP」を選択すると、送受信データに対して40ビット（64ビット）暗号化を行うようになります。「128bit WEP」を選択すると、送受信データに対して128ビット暗号化を行うようになります。WEPを使用する場合は、無線通信を行うすべてのステーションで同じ種類、同じキーを使用して暗号化を行う必要があります。工場出荷時の状態ではWEP機能は無効になっています。

◎40ビット（64ビット）WEPキーの設定

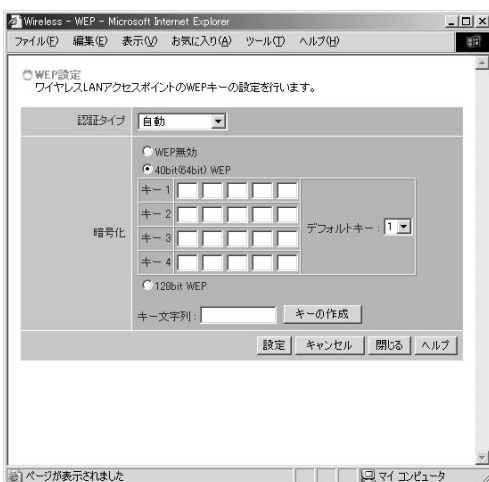
本製品のWEPキーの設定方法には自動的にWEPキーを作成する方法と、WEPキーを直接入力する方法の2種類があります。

WEPキーを自動的に作成する場合は「キー文字列」に任意の文字列を入力して「キーの作成」ボタンをクリックしてください。このときに作成されたWEPキーが「キー1」から「キー4」に表示されます。表示されたWEPキーをメモを取るなどして記録しておいてください。

WEPキーを直接入力する場合は、「キー1」から「キー4」に16進数（0～9、A～F）でキーを入力してください。入力したキーは忘れないようにメモしておいてください。無線LAN通信を行うすべてのコンピュータに同じWEPキーを設定してください。

「デフォルトキー」

デフォルトで使用する暗号キーを選択してください。選択した暗号キーを使用して送信データの暗号化を行います。



◎128ビットWEPキーの設定

本製品のWEPキーの設定方法には自動的にWEPキーを作成する方法と、WEPキーを直接入力する方法の2種類があります。

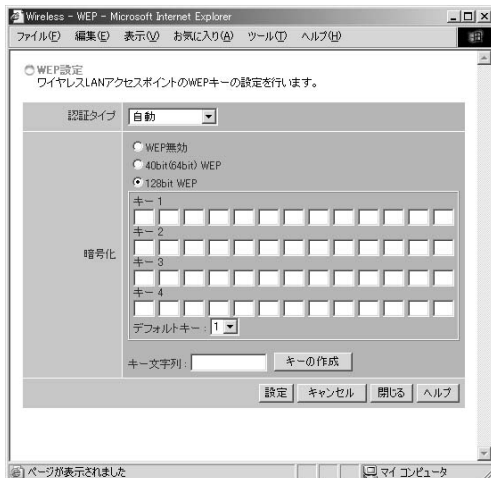
WEPキーを自動的に作成する場合は「キー文字列」に任意の文字列を入力して「キーの作成」ボタンをクリックしてください。このときに作成されたWEPキーが「キー1」から「キー4」に表示されます。表示されたWEPキーをメモを取るなどして記録しておいてください。

WEPキーを直接入力する場合は、「キー1」から「キー4」に16進数（0～9、A～F）でキーを入力してください。入力したキーは忘れないようにメモしておいてください。

無線LAN通信を行うすべてのコンピュータに同じWEPキーを設定してください。他のワイヤレスLANステーションで128bit WEPキーが1つしか設定できないときは、本製品のデフォルトキーに設定したWEPキーと同じWEPキーを設定してください。

「デフォルトキー」

デフォルトで使用する暗号キーを選択してください。選択した暗号キーを使用して送信データの暗号化を行います。



●アクセスポイント設定

本製品のアクセスポイント機能を使用する無線ステーションのアクセス権の設定を行います。

「LAN側ネットワークへのアクセス許可」

本製品のアクセスポイントを経由してLAN側ネットワークにアクセスできるワイヤレスLANクライアントを制限することができます。セキュリティ上、選択したワイヤレスLANクライアントのみがアクセスできるように設定することを推奨します。

「すべてのワイヤレスLANクライアント」を選択するとすべてのワイヤレスLANクライアントがLAN側ネットワークにアクセスできます。「選択したワイヤレスLANクライアントのみ」を選択すると「クライアント設定」で選択したワイヤレスLANクライアントのみがLAN側ネットワークにアクセスできます。

「インターネットへのアクセス許可」

本製品のアクセスポイントを経由してインターネットにアクセスできるワイヤレスLANクライアントを制限することができます。セキュリティ上、選択したワイヤレスLANクライアントのみがアクセスできるように設定することを推奨します。

「すべてのワイヤレスLANクライアント」を選択するとすべてのワイヤレスLANクライアントがインターネットにアクセスできます。「選択したワイヤレスLANクライアントのみ」を選択すると「クライアント設定」で選択したワイヤレスLANクライアントのみがインターネットにアクセスできます。

「クライアント設定」

このボタンをクリックすると、アクセス許可を与えるワイヤレスステーションを選択する画面が表示されます。リストからアクセス権を与えるクライアントを選択してください。リストにクライアントが表示されていないときは「6-5 PCデータベースの作成」を参照して、PCデータベースにクライアントを追加してください。

設定が終了したら「設定」ボタンをクリックしてください。

5 PCデータベースの作成

本製品のLAN側ポートに接続されているコンピュータのデータベース「PCデータベース」を作成します。PCデータベースは本製品の以下の機能で使
用します。これらの機能を使用するときは、あらかじめPCデータベースの
作成を行ってください。

■PCデータベースを使用する機能

●DHCPサーバによる固定IPアドレスの割り当て

●ローカルサーバ機能

●バーチャルコンピュータ機能

●特殊アプリケーション機能

●アクセス制限機能

6

詳細
設定

PCデータベースの設定をするには、画面左側のメインメニューから「アドバンスド設定」をクリックし、表示されるアドバンスド設定メニューから「PCデータベース」をクリックします。



画面左側の「PCリスト」欄には、PCデータベースに登録されているコンピュータが表示されます。本製品のDHCPサーバ機能でIPアドレスを自動取得しているコンピュータは自動的にPCデータベースに登録されます。

■コンピュータの追加

IPアドレスを固定設定しているコンピュータをPCデータベースに登録するには、「コンピュータ名」に登録するコンピュータの名前と、「IPアドレス」欄にコンピュータのIPアドレスを入力して、「< 追加」ボタンをクリックします。IPアドレスは「.」（ドット）で区切られた4つの数字の内の最後の1つを入力します。例えば「192.168.1.200」を設定するときは「200」を入力します。

■コンピュータの削除

「PCリスト」から削除するコンピュータを選択して、「削除」ボタンをクリックします。

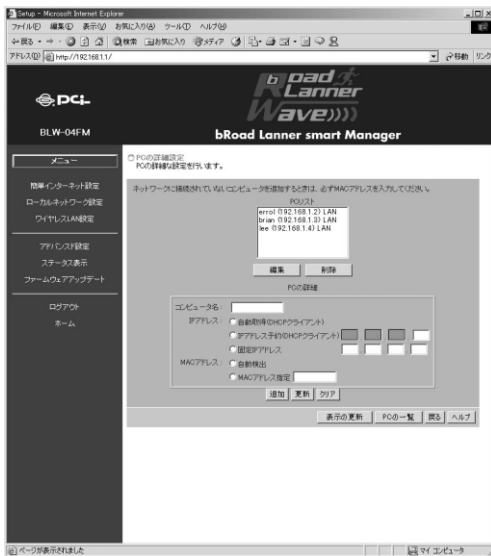
■PCデータベースの一覧表示

「PCの一覧」ボタンをクリックするとPCデータベースに登録されているコンピュータを一覧表示します。



■コンピュータの詳細設定

PCデータベースに登録されているコンピュータの詳細設定を行います。



「編集」ボタン

すでに登録してあるコンピュータの設定を変更するには、PCリストからコンピュータを選択して、「編集」ボタンをクリックします。

「削除」ボタン

すでに登録してあるコンピュータを削除するには、PCリストからコンピュータを選択して、「削除」ボタンをクリックします。

「コンピュータ名」

コンピュータ名を入力します。

「IPアドレス」

IPアドレスの割り当て方法を選択します。本製品のDHCPサーバ機能からIPアドレスを割り当てるときは「自動取得」を選択します。DHCPサーバ機能から固定のIPアドレスを割り当てるときは「IPアドレス予約」を選択して、割り当てるIPアドレスを入力します。IPアドレスは「.」（ドット）で区切られた4つの数字の内の最後の1つを入力します。例えば「192.168.1.200」を設定するときには「200」を入力します。DHCPサーバ機能を使用しないで固定のIPアドレスを設定しているときは「固定設定」を選択して固定設定するIPアドレスを入力します。

「MACアドレス」

コンピュータのMACアドレスを設定します。MACアドレスを自動検出するときは「自動検出」を選択します。MACアドレスを直接入力するときは「MACアドレス指定」を選択して、コンピュータのMACアドレスを入力します。MACアドレスは16進数（0 - 9、a - f）、12桁で入力してください。（例：0090cc11aa22）

「追加」ボタン

入力した内容でコンピュータを登録するには、「追加」ボタンをクリックします。

「更新」ボタン

入力した内容でコンピュータの設定を更新するには、「更新」ボタンをクリックします。

「PCの一覧」ボタン

PCデータベースに登録されているコンピュータを一覧表示します。

6 ローカルサーバ機能

ローカルサーバ機能とは、LAN側に接続したコンピュータ上で動作しているサーバ（アプリケーション）にインターネット（WAN）側からアクセスできる機能です。ローカルサーバ機能では、あらかじめ定義されているアプリケーションか、TCP/UDPプロトコルのポート番号ごとに転送先のLAN側コンピュータのローカルIPアドレスを設定できます。ローカルサーバ機能の設定をするには、あらかじめ転送先のコンピュータをPCデータベースに登録しておく必要があります。

ローカルサーバ機能を設定するには、画面左側のメインメニューの「アドバンスド設定」をクリックして表示されるアドバンスド設定メニューから「ローカルサーバ」をクリックします。

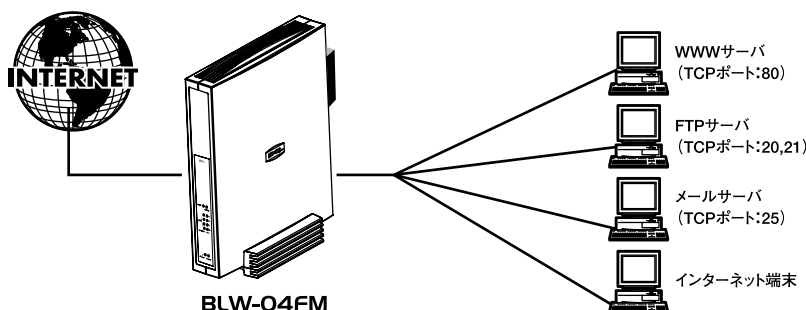


図6-1 ローカルサーバ



「登録済みのサーバ」

登録されているローカルサーバが表示されます。登録済みのローカルサーバの設定を変更するには、設定を変更するサーバをリストから選択してください。「サーバの設定」に選択したサーバの設定状況が表示されます。あらかじめ次のサーバ（アプリケーション）が登録されています。

登録済みのサーバ・・・WEB（HTTP）、FTP（Data/Control）、E-Mail（POP3/SMTP）、DNS、Telnet

「初期状態に戻す」ボタン

ローカルサーバの設定状況を初期状態に戻します。

「すべて無効にする」ボタン

設定済みのローカルサーバをすべて無効にします。

「サーバ名」

サーバ（アプリケーション）の名前です。サーバを追加するときは追加するサーバ名を入力します。登録済みのサーバをリストから選択したときは選択したサーバ名が表示されます。

「有効にする」

サーバを有効にするときはチェックします。サーバを無効にするときはチェックを外します。

「ローカルPC」

インターネット側からのアクセスを転送（公開）するLAN側のコンピュータをリストから選択します。転送先に指定するコンピュータはあらかじめPCデータベースに登録しておいてください。

「プロトコル」

インターネット側からアクセスしたいサーバ（アプリケーション）で使用するプロトコルを「TCP」、「UDP」、「TCP&UDP」から選択します。

「内部ポート」

インターネット側からアクセスしたいサーバ（アプリケーション）で使用しているポート番号を入力します。通常は外部ポートと同じ番号を入力します。

「外部ポート」

インターネット側からアクセスしたいサーバ（アプリケーション）で使用しているポート番号を入力します。通常は内部ポートと同じ番号を入力します。

「追加」ボタン

入力した内容でサーバを追加するときは「追加」ボタンをクリックします。

「更新」ボタン

登録済みのサーバの設定を入力した内容で更新するときは「更新」ボタンをクリックします。

「削除」ボタン

登録済みのサーバを削除するときは「削除」ボタンをクリックします。

◎例：WEBサーバの公開

LAN側のコンピュータでWEBサーバを公開するときは、あらかじめ「PCデータベース」の設定で公開するコンピュータを登録しておきます。その次にローカルサーバの設定で「登録済みのサーバ」から「Web」を選択し、「ローカルPC」欄で公開するコンピュータを選択します。「有効にする」欄をチェックして「更新」ボタンをクリックします。

設定したWEBサーバにインターネットからアクセスするには、WEBブラウザのアドレス（URL）入力欄に本製品のWAN側ポートのIPアドレスを入力します。

7 バーチャルコンピュータ機能

バーチャルコンピュータ機能とは、LAN側のコンピュータにインターネット（WAN）側からアクセスする機能で、DMZ（DeMilitarized Zone）とよばれることもあります。バーチャルコンピュータを設定すると、インターネットからの本製品WAN側ポートのグローバルIPアドレスへ送られてくる不明なパケットはすべて設定したバーチャルコンピュータに転送されます。

バーチャルコンピュータの設定をするには、あらかじめ転送先のコンピュータをPCデータベースに登録しておく必要があります。

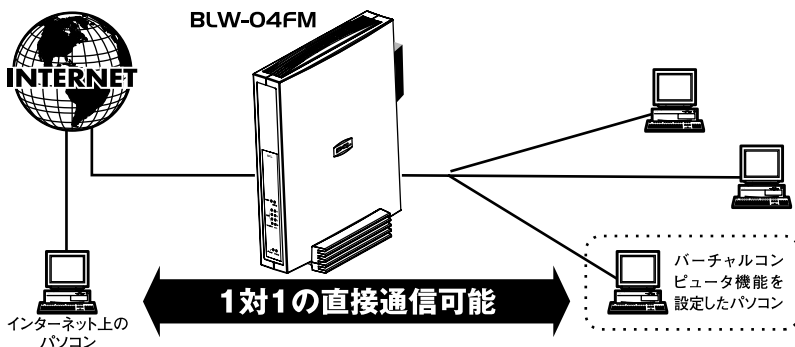


図6-2 バーチャルコンピュータ機能

バーチャルコンピュータを設定するには、画面左側のメインメニューの「アドバンスド設定」をクリックして表示されるアドバンスド設定メニューから「バーチャルコンピュータ」をクリックします。



注意

バーチャルコンピュータ機能を有効にすると、バーチャルコンピュータに設定したコンピュータに対してセキュリティが無効な状態になります。バーチャルコンピュータ機能は、必要時以外は無効にしておくことを推奨します。

「バーチャルコンピュータ」

バーチャルコンピュータ機能を使うときは「有効にする」をチェックし、転送先の（公開する）コンピュータを右側のリストから選択します。転送先に指定するコンピュータはあらかじめPCデータベースに登録しておいてください。バーチャルコンピュータ機能を使わないときはチェックを外します。

設定が終了したら「設定」ボタンをクリックします。

8 特殊アプリケーション

特殊アプリケーション機能とは、アプリケーションで使用する送信パケットと受信パケットでプロトコルとポート番号が異なるため、NAPT（IPマスカレード）環境では使用できないアプリケーションを使用できるようにする機能です。特殊アプリケーション機能の設定をするには、あらかじめアプリケーションを使用するLAN側のコンピュータをPCデータベースに登録しておく必要があります。

特殊アプリケーション機能を設定するには、画面左側のメインメニューの「アドバンスド設定」をクリックして表示されるアドバンスド設定メニューから「バーチャルコンピュータ」をクリックします。



6

詳細設定

「アプリケーション名」

使用するアプリケーションを選択します。登録されていないアプリケーションを使用するときは、「アプリケーションの追加」ボタンをクリックしてアプリケーションの追加を行います。

「アプリケーションを使用するPC」

アプリケーションを使用するコンピュータを右側のリストから選択します。使用するコンピュータはあらかじめPCデータベースに登録しておいてください。

設定が終了したら「設定」ボタンをクリックします。

■特殊アプリケーションの追加

特殊アプリケーションの追加を行うには、「アプリケーションの追加」ボタンをクリックしてください。特殊アプリケーションの追加画面が表示されます。特殊アプリケーションの追加を行うにはアプリケーションで使用するプロトコルとポート番号を調べておく必要があります。特殊アプリケーションは6個まで登録できます。

アプリケーション名	受信パケット			送信パケット		
	プロトコル	開始ポート	終了ポート	プロトコル	開始ポート	終了ポート
1. ☐	TCP			TCP		
2. ☐	TCP			TCP		
3. ☐	TCP			TCP		
4. ☐	TCP			TCP		
5. ☐	TCP			TCP		
6. ☐	TCP			TCP		



注意

ここで追加した特殊アプリケーションは、特殊アプリケーションリストには表示されません。また、アプリケーションを使用するコンピュータを指定する必要もありません。

「アプリケーション名」

追加するアプリケーションのアプリケーション名を入力してください。有効にするときはアプリケーション名の前のチェックボックスをチェックしてください。

「送信パケット」

アプリケーションの送信パケットで使用する、「プロトコル」と「開始ポート」番号、「終了ポート」番号を入力します。

「受信パケット」

アプリケーションの受信パケットで使用する、「プロトコル」と「開始ポート」番号、「終了ポート」番号を入力します。

設定が終了したら「設定」ボタンをクリックします。

本製品は、LAN側のコンピュータのグループごとにWEB参照やE-mailの使用などの特定のインターネットサービスを曜日や時間を指定して制限することが可能です。アクセス制限の設定をするには、コンピュータのグループを編集するためにアクセス制限するLAN側のコンピュータをPCデータベースに登録しておく必要があります。

アクセス制限機能の設定を行うには、設定画面左側のメインメニューの「アドバンスド設定」をクリックして表示されるアドバンスド設定メニューから「アクセス制限」をクリックしてください。



■グループの編集

アクセス制限はコンピュータのグループごとに設定します。グループには「Group1」から「Group4」と「Everyone」の5つがあります。アクセス制限を行うコンピュータが何れかのグループに参加するよう設定します。「Group1」から「Group4」のどのグループにも参加していないコンピュータは自動的に「Everyone」に参加することになります。グループのメンバーを編集するにはLAN側のコンピュータをPCデータベースに登録しておく必要があります。

メンバーの編集を行うグループを選択して「メンバーの編集」ボタンをクリックします。選択したグループのメンバー編集画面が表示されます。



「グループのメンバ（PC）」

グループに参加しているコンピュータが表示されます。メンバから削除するには、削除するコンピュータを選択して「削除 >」ボタンをクリックします。

「その他のPC」

グループに参加していないコンピュータが表示されます。メンバに追加するには、追加するコンピュータを選択して「< 追加」ボタンをクリックします。

設定が終了したら「設定」ボタンをクリックします。

■グループのアクセス制限の設定



「グループを選択」

アクセス制限の設定をするグループを選択します。

「アクセス制限」

アクセス制限の種類を選択します。アクセス制限をしないときは「なし」を選択します。すべてのサービスの使用を制限するときは「すべてのサービス」を選択します。特定のサービスのみ使用を制限するときは「選択したサービス」を選択し、下記の「制限するサービスを選択」の欄で使用を禁止するサービスを選択します。

「スケジュール」

何曜日の何時から何時までのように、スケジュールを決めてサービスの使用を制限するときは「あり」を選択します。スケジュールを決めずに常にサービスの使用を制限するときは「なし」を選択します。スケジュールの設定方法についてはこの後で説明します。

「制限するサービスを選択」

使用を制限するサービスを選択します。リストにないサービスを追加するときは「サービスリストの編集」ボタンをクリックします。

「アクセス制限ログの表示」

アクセス制限の動作記録を表示します。

「アクセス制限ログのクリア」

アクセス制限の動作記録を消去します。

設定が終了したら「設定」ボタンをクリックします。

■スケジュールの設定

スケジュールの設定は曜日ごとに何時から何時までという形でアクセス制限する時間を入力します。各曜日2つまで時間を設定できます。時間は24時間表記で入力してください。1日中制限を行うときはその曜日の「Session1」の欄に「00:00 - 24:00」と入力します。1日中制限を行わないときはその曜日のすべての欄を空欄にします。

Define Schedules - Microsoft Internet Explorer

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H) 印刷

○スケジュールの設定
24時間表記で入力してください。
1日中 制限を ONにするとき: 00:00 - 24:00
1日中 制限をOFFにするとき: 空欄

曜日	Session 1		Session 2	
	開始	終了	開始	終了
月曜	07:00	18:00		
火曜	07:00	18:00		
水曜	07:00	18:00		
木曜	07:00	18:00		
金曜	07:00	18:00		
土曜				
日曜				

設定 キャンセル 閉じる ヘルプ

ページが表示されました

設定が終了したら「設定」ボタンをクリックします。

■ サービスリストの編集



6

詳細
設定

「登録されているサービス」

登録されているサービスの一覧が表示されます。ユーザが追加したサービスにはサービス名の前に「*」（アスタリスク）が表示されます。追加したサービスを削除するときは、削除するサービスを選択して「削除」ボタンをクリックします。初期登録されているサービスは削除できません。

「サービス名」

追加するサービスの名前を入力します。

「プロトコル」

追加するサービスで使用しているプロトコルを「TCP」、「UDP」、「TCP&UDP」、「ICMP」から選択します。

「開始ポート」

プロトコルで「TCP」、「UDP」、「TCP&UDP」を選択したときはサービスで使用しているポート範囲の開始ポート番号を入力します。

「終了ポート」

プロトコルで「TCP」、「UDP」、「TCP&UDP」を選択したときはサービスで使用しているポート範囲の終了ポート番号を入力します。

「ICMPタイプ」

プロトコルで「ICMP」を選択したときは、ICMPのタイプを入力します。

設定が終了したら「設定」ボタンをクリックします。

10 URLフィルタ

URLフィルタ機能では、LAN側のコンピュータからの登録されたURLへのアクセスを制限する事ができます。

URLフィルタ機能を設定するには、設定画面左側のメインメニューの「アドバンスド設定」をクリックして表示されるアドバンスド設定メニューから「URLフィルタ」をクリックします。



「URLフィルタ」

ここをチェックするとURLフィルタが有効になります。URLフィルタを無効にするにはチェックを外してください。

「URLフィルタの設定」ボタン

URLフィルタの設定をするときにクリックします。

■URLフィルタの設定

アクセスを制限するURLの登録をします。アクセスを制限したいWEBサイトのURL、IPアドレス、キーワードのいずれかを入力します。

例えば、LAN側ネットワーク上のユーザがwww.website.comというWEBサイトへアクセスするのを禁止したい場合は、www.website.com またはweb-site（キーワード入力）と入力してください。もしwebまたはsiteと入力した場合は、URLにwebまたはsiteを含んだすべてのWEB サイトへのアクセスが禁止されます。



「削除」ボタン

フィルタを削除したいときは、削除したいフィルタをフィルタリストから選択してこのボタンをクリックします。

「すべて削除」ボタン

すべてのフィルタを削除したいときはこのボタンをクリックします。

「フィルタの追加」

追加したいフィルタのURL、IPアドレス、キーワードの何れかを入力して「追加」ボタンをクリックします。



注意

URLを入力するときは、`http://`の部分は入力しないでください。

11 ファイアウォール設定

本製品はファイアウォール機能としてDoS（Denial of Service）攻撃検出機能を装備しています。インターネット（WAN）側からの次の攻撃を検出し、これを遮断します。

検出できる攻撃：「IP Spoofing」「Land Attack」「Ping of Death」「Zero Length IP」「Smurf Attack」「UDP Port Loopback」「Snork Attack」「TCP null scan」「TCP Syn flood」

検出した攻撃は、ログに記録することができます。また、記録したログはE-Mailで送信することができます。

ファイアウォール機能を設定するには、設定画面左側のメインメニューの「アドバンスド設定」をクリックして表示されるアドバンスド設定メニューから「セキュリティ」をクリックします。



「ファイアウォール機能」

ファイアウォール機能を使うときは「DoS（Denial of Service）攻撃検出を有効にする」をチェックし、次の「WAN側回線速度」を設定します。ファイアウォール機能を使わないときはチェックを外します。

「WAN側回線速度」

ファイアウォール機能を使用するときに、WAN側の回線の速度を設定します。

「WAN（インターネット）からのpingに応答する」

この項目をチェックすると、WAN（インターネット）からのpingに応答します。チェックを外すとpingに応答しません。pingは攻撃の前段階として、攻撃対象となるホストの検出に使用されることがあります。よりセキュリティを高めるためにはチェックを外しておくことを推奨します。

設定が終了したら「設定」ボタンをクリックします。

12 VPNパススルー設定

本製品はLAN-WAN間でVPNパケットをパススルーすることができます。
パススルー可能なVPNプロトコルは、IPsec、PPTP、L2TP の3種類です。

VPNパススルーの設定をするには、設定画面左側のメインメニューの「アドバンスド設定」をクリックして表示されるアドバンスド設定メニューから「セキュリティ」をクリックします。



「IPsecパススルー有効」

この項目をチェックするとIPsecプロトコルを使用したVPNパケットのパススルー機能が有効になります。無効にしたいときはチェックを外します。

「PPTPパススルー有効」

この項目をチェックするとPPTPプロトコルを使用したVPNパケットのパススルー機能が有効になります。無効にしたいときはチェックを外します。

「L2TPパススルー有効」

この項目をチェックするとL2TPプロトコルを使用したVPNパケットのパススルー機能が有効になります。無効にしたいときはチェックを外します。

設定が終了したら「設定」ボタンをクリックします。



注意

- 本製品で対応しているのはVPNパケットのパススルー機能のみです。実際にVPNでの通信を行うにはVPNサーバやVPNクライアントなどの機能に対応した機器やソフトウェアなどが必要です。
- LAN側にVPNサーバを設置する場合はVPNサーバをバーチャルコンピュータに設定してください。

13 ログ機能の設定

本製品はLAN側コンピュータからのインターネットアクセスやアクセス制限、DoS攻撃検出などの状況をログに記録することができます。また、記録したログはE-Mail送信やsyslogサーバに送信することもできます。

ログ機能の設定をするには、設定画面左側のメインメニューの「アドバンスド設定」をクリックして表示されるアドバンスド設定メニューから「ログ」をクリックします。



「記録するログ」

記録するログの種類を選択します。「インターネットアクセスログ」はLAN側のコンピュータからのインターネットへのアクセスを記録します。「アクセス制限ログ」はアクセス制限機能の動作状況を記録します。「DoS攻撃検出ログ」はDoS攻撃の検出を記録します。

「ログの表示」ボタン

ログを表示します。

「ログのクリア」ボタン

ログを消去します。

「タイムゾーン」

ログに時刻を記録ときに適用するタイムゾーンを選択します。日本の場合、「(GMT+09:00) 大阪、札幌、東京」を選択します。

「警告メール送信」

DoS攻撃検出ログが有効で、DoS攻撃を検出したときにDoS攻撃検出ログをメール送信するかどうかを設定します。DoS攻撃検出ログをメール送信するときは「送信先アドレス」などの各項目を正しく設定してください。

「ログメール送信」

インターネットアクセスログとアクセス制限ログをメール送信するかどうかを設定します。メール送信するときは「送信条件」と「送信先アドレス」などの各項目を正しく設定してください。

「送信先アドレス」

メールの送信先アドレスを入力します。メールアドレスは「@（アットマーク）」以降も含めて正しく入力してください。

「件名」

送信メールの件名を入力します。

「メール（SMTP）サーバ」

送信先のメール（SMTP）サーバのアドレスをホスト名またはIPアドレスで入力します。

「ポート番号」

メール送信に使用するポート番号を入力します。通常はデフォルト値の「25」から変更する必要はありません。

「syslogレベル」

syslogサーバに送信するsyslogメッセージのレベルを設定します。送信するsyslogレベルをチェックします。syslogメッセージの送信を行わないときはすべてのチェックを外します。

「syslogサーバ」

syslogメッセージを送信するsyslogサーバをIPアドレスまたはホスト名で入力します。

設定が終了したら「設定」ボタンをクリックします。

14 UPnP（ユニバーサルプラグアンドプレイ）

本製品はUPnP（ユニバーサルプラグアンドプレイ）に対応しています。UPnP機能の設定をするには、画面左側のメインメニューから「アドバンスド設定」をクリックし、表示されるアドバンスド設定メニューから「UPnP」をクリックします。



6

詳細
設定

「UPnP」

この項目をチェックするとUPnP機能が有効になります。UPnP機能を無効にするときはチェックを外します。

「UPnP経由で設定を変更できる」

この項目をチェックするとUPnPプロトコル経由での本製品の設定の変更ができるようになります。

「UPnP経由でインターネットアクセスを無効にできる」

この項目をチェックするとUPnPプロトコル経由での本製品のインターネット接続を無効にできるようになります。

設定が終了したら「設定」ボタンをクリックします。



注意

UPnPからの設定変更は通常のWEBブラウザからの設定と違い、パスワードが必要ありません。このためLAN側に多数のユーザが接続している環境などでは、UPnP経由での設定変更とインターネットアクセス無効の設定はチェックしないで使用することを推奨します。

15 ルーティング設定

本製品はダイナミックルーティングプロトコルとしてRIP（Ver.1）に対応しています。また、スタティックルーティングを追加することができます。

ルーティングの設定をするには、設定画面左側のメインメニューから「アドバンスド設定」をクリックし、表示されるアドバンスド設定メニューから「ルーティング」をクリックします。



「RIP」

この項目をチェックするとRIP（Ver.1）が有効になります。RIPを有効有効にすると、ネットワーク上の他のRIP対応ルータとルーティング情報を交換し、ルーティングテーブルを自動的に更新します。RIPを無効にするときはチェックを外してください。

設定が終了したら「設定」ボタンをクリックします。

■スタティックルーティングエントリの追加/修正

「スタティックルーティングテーブル」には、登録されたスタティックルーティングのエントリが表示されます。

スタティックルーティングを追加するときは、次の各項目を入力して「追加」ボタンをクリックします。登録済みのエントリを修正するときは、スタティックルーティングテーブルから修正するエントリを選択し、次の各項目を変更して「更新」ボタンをクリックします。エントリを削除するときには削除するエントリを選択して「削除」ボタンをクリックします。

スタティックルーティングエントリの最大登録数は20です。

「送信先アドレス」

パケットの送信先のネットワークアドレスを入力してください。

「サブネットマスク」

送信先ネットワークのサブネットマスクを入力してください。

「ゲートウェイアドレス」

送信先ネットワークへ到達するためのゲートウェイ（ルータ）のIP アドレスを入力してください。

「メトリック」

送信先ネットワークまでのメトリック値を入力してください。

■ルーティングテーブルの表示

「ルーティングテーブルの表示」ボタンをクリックすると、スタティックルーティングも含めた、すべてのルーティングテーブルが表示されます。

16 DMZ機能による複数グローバルIPアドレス接続の設定

本製品はDMZネットワーク機能を装備しています。複数のグローバルIPアドレスを割り当てられるサービスをご利用のときは、DMZ機能によりサーバを公開することができます。

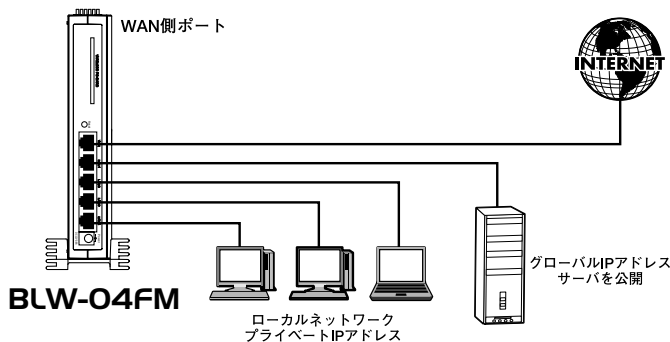


図6-3 DMZネットワーク

DMZネットワークの設定をするには、設定画面左側のメインメニューから「アドバンスド設定」をクリックし、表示されるアドバンスド設定メニューから「DMZネットワーク」をクリックします。



画面に設定済みのDMZネットワーク範囲がリスト表示されます。DMZネットワークには最大で4つのIPアドレス範囲を設定することができます。DMZネットワーク範囲の設定をするには、DMZネットワーク範囲の最初のIPアドレスを「開始IPアドレス」欄に、最後のIPアドレスを「終了IPアドレス」欄に入力して「設定」ボタンをクリックします。

●DMZ ネットワークの設定例

プロバイダから複数のグローバルIPアドレスが割り当てられる場合、1つのサブネットとして連続したグローバルIPアドレスが割り当てられます。このうち、最初（ネットワークアドレス）と最後（ブロードキャストアドレス）は、システムで予約されておりホスト（コンピュータやサーバ）には使用できません。また、本製品のWAN側ポートで使用するIPアドレスも必要になります。従って、ホストで自由に利用可能なIP アドレスは、（プロバイダから割り当てられたアドレス数－3）個になります。（プロバイダから8 個のグローバルIP アドレスが割り当てられている場合は5個が利用可能）

例：プロバイダから153.16.10.40～153.16.10.47（153.16.10.40/29）の8 個のグローバルIP アドレスが割り当てられた場合

153.16.10.40 ネットワークアドレス（使用不可）
153.16.10.41 ルータ用（例：本製品WAN側ポート）
153.16.10.42 DMZ ホスト用（例：プライマリDNSサーバ）
153.16.10.43 DMZ ホスト用（例：WEB サーバ）
153.16.10.44 DMZ ホスト用（例：メールサーバ）
153.16.10.45 DMZ ホスト用（例：FTP サーバ）
153.16.10.46 DMZ ホスト用（例：その他サーバ）
153.16.10.47 ブロードキャストアドレス（使用不可）

この場合、DMZ ネットワークで使用可能なIP アドレス範囲は153.16.10.42～153.16.10.46になります。DMZネットワーク設定の「開始IPアドレス」には、153.16.10.42 を設定し、「終了アドレス」には153.16.10.46 を設定してください。また、本製品のWAN 側ポートのIP アドレスには153.16.10.41 を固定設定してください。



注意

- 一般的にルータ（本製品WAN側）に設定するグローバルIPアドレスは、ネットワークアドレスの次のアドレスにします。プロバイダから指定されていない場合は、特に理由がない限りこのアドレスを設定してください。
- LAN側ポートの設定は変更しないでください。LANポートにグローバルアドレスを設定すると正常に動作しません。

●DMZホスト（コンピュータやサーバ）の設定

本製品のDMZネットワーク機能を利用する場合、DMZネットワークに接続するホスト（パソコンやサーバ）のネットワーク設定は次のようになります。

■IPアドレス

プロバイダから割り当てられたIPアドレスの中で、さらに本製品のDMZネットワーク範囲に設定したグローバルIPアドレス

例：153.16.10.42

■サブネットマスク

プロバイダから指定されたサブネットマスク

例：255.255.255.240

■デフォルトゲートウェイ

割り当てられたIP アドレス範囲の2 番目のグローバルIP アドレス（＝本製品WAN側ポートに設定したグローバルIPアドレス）

例：153.16.10.41

17 VLAN（バーチャルLAN）

本製品のLAN側ポートは最高4グループのポートベースVLANに対応しています。VLAN設定をすると異なるVLANグループ間では通信ができなくなります。バーチャルコンピュータやDMZネットワークなどの機能を使用してインターネットに公開するコンピュータを接続したポートを他のポートとは異なるVLANグループに設定することによりセキュリティを向上することができます。工場出荷時の状態ではすべてのポートがVLANグループ1に参加しています。

VLANの設定をするには、設定画面左側のメインメニューから「アドバンスド設定」をクリックし、表示されるアドバンスド設定メニューから「VLAN（バーチャルLAN）」をクリックします。



各ポートごとに参加するVLANグループを選択してください。各ポートは1つのVLANグループに参加することができます。

設定が終了したら「設定」ボタンをクリックします。

18 MACアドレスの変更

本製品のWAN側ポートのMACアドレスを変更します。通常はMACアドレスを変更する必要はありません。プロバイダによってはインターネットに接続するコンピュータのMACアドレスの登録が必要なことがあります。すでにコンピュータのMACアドレスを登録しているときは登録済みのMACアドレスに変更することにより、プロバイダへの登録変更をすることなくご利用いただけます。

MACアドレスの変更をするには、設定画面左側のメインメニューから「アドバンスド設定」をクリックし、表示されるアドバンスド設定メニューから「MACアドレス」をクリックします。



「MACアドレス」

本製品の現在のWAN側ポートのMACアドレスが表示されます。

「出荷時設定」

本製品のWAN側ポートのMACアドレスを出荷時の設定に戻します。

「このPCからコピー」

本製品のWAN側ポートのMACアドレスに、現在設定するためにアクセスしているコンピュータのMACアドレスをコピーできます。

設定が終了したら「設定」ボタンをクリックします。

19 リモート管理設定

本製品のインターネット（WAN）からの設定画面へのログイン許可の設定を行います。設定画面左側のメインメニューの「アドバンスド設定」をクリックして表示されるアドバンスド設定メニューから「リモート管理」をクリックします。



「リモート管理」

この項目をチェックするとインターネット（WAN）側からの設定画面へのログインを許可します。この項目は必要なとき以外はセキュリティ上、チェックしないことを推奨します。

「ポート番号」

インターネット（WAN）側から設定画面へアクセスするときのポート番号を設定します。

設定が終了したら「保存」ボタンをクリックします。

インターネット側から本製品の設定画面にアクセスするときはブラウザのアドレスを入力する欄に次のように入力してください。

http://WAN側IPアドレス:ポート番号/

20 Dynamic DNS設定

本製品はwww.dyndns.orgにより提供されているDynamic DNSサービスに対応しています。dyndns.orgに登録してあるユーザ名、パスワード、ドメイン名の情報を本製品に設定しておくことにより、自動的に登録内容の更新を行います。

DynamicDNSの設定をするには、設定画面左側のメインメニューの「アドバンスド設定」をクリックして表示されるアドバンスド設定メニューから「Dynamic DNS」をクリックします。



注意

設定をする前に [http : //www.dyndns.org/](http://www.dyndns.org/) にアクセスしてドメイン名の登録を行ってください。



「ユーザ名」

dyndns.orgに登録したユーザ名を入力します。

「パスワード」

dyndns.orgに登録したパスワードを入力します。

「ドメイン名」

dyndns.orgに登録したドメイン名を入力します。

設定が終了したら「設定」ボタンをクリックします。

21 ステータス表示

ステータス表示画面では、本製品のWAN側ポートの接続状況、LAN側ポートの設定、ファームウェアのバージョンなどの情報を表示と、DHCPによるWAN側IPアドレスの開放/更新、PPPoE接続の手動接続/切断の操作ができます。

ステータス画面を表示するには、メインメニューから「ステータス表示」をクリックします。



6

詳細設定

WAN側ポートのステータスの「詳細」ボタンをクリックすると、さらに詳細なステータスが表示されます。

「解放/更新」ボタン

WAN側ポートの接続方法がDHCP接続のときにIPアドレスの解放/更新をします。

「接続」ボタン

WAN側ポートの接続方法がPPPoE接続のときにPPPoEの接続処理をします。

「切断」ボタン

WAN側ポートの接続方法がPPPoE接続のときにPPPoEの切断処理をします。

22 ファームウェアのアップデート

本製品はWEBブラウザからファームウェアのアップデートができます。

ファームウェアをアップデートするときは、設定画面左側のメインメニューの「ファームウェアアップデート」をクリックします。



「パスワード」

本製品の管理者パスワードを入力します。

「ファームウェアファイル」

ファームウェアファイルをフルパスで入力します。または「参照」ボタンをクリックしてファームウェアファイルを選択します。

ファームウェアファイルを選択したら、「アップデート」ボタンをクリックします。ファームウェアが読み込まれ本製品が再起動します。

トラブルシューティング

■ POWER LEDが点灯しない

- 本製品付属のACアダプタをお使いになっていますか？
- ACアダプタが本製品背面の電源コネクタにしっかりと接続されていますか？

■ WAN LEDが点灯しない

- ツイストペアケーブルの両端はそれぞれ、本製品背面のWAN側ポートおよびADSL/ケーブルモデムのRJ-45ポートにしっかりと接続されていますか？
- ADSL/ケーブルモデムの電源は入っていますか？
- LANケーブルの種類は間違っていないですか？
- ADSL/ケーブルモデムにMDI/MDI-Xの切り替えスイッチがある場合は切り替えてみてください。

■ LAN Link/Act LEDが点灯しない

- ツイストペアケーブルの両端はそれぞれ、本製品背面のLAN側ポートおよびハブまたはコンピュータのRJ-45ポートにしっかりと接続されていますか？
- コンピュータの電源は入っていますか？

■ WEB設定画面が表示されない

- コンピュータのネットワークアダプタは正常に動作していますか？コンピュータまたはネットワークアダプタのマニュアルを参照してネットワーク設定を確かめてください。
- コンピュータのTCP/IPの設定に間違いがあることも考えられます。IPを自動取得（DHCPサーバでの設定）する設定にします。
- お使いになっているWEBブラウザで、プロキシが設定されていると設定画面が表示されません。プロキシを使わない設定にします。Internet Explorerでは「表示（ツール）」→「インターネットオプション」→「接続」、Netscapeでは「編集」→「設定」→「詳細」にプロキシの設定項目があります。
- コンピュータがIPアドレスを取得できていないことも考えられます。→ WindowsではDOSプロンプトから、ipconfigコマンドを実行するとIPアドレスが表示されています。Macintoshではアップルメニューから「コントロールパネル」→「TCP/IP」を開いて、IPアドレスの欄にIPが割り振られてるか確かめてください。コンピュータがIPアドレスを取得できてないときは、コンピュータを再起動します。（デフォルト設定時は192.168.1.xxx がIPアドレスに割り当てられます。）

■ インターネットにアクセスできない

- WAN側のIP設定に間違いがあることも考えられます。→プロバイダから受け取っているIP設定の資料をよく確かめ、「第4章 インターネット接続設定」をやり直します。
- PPPoE接続の場合はユーザー名の設定で@（アットマーク）以降が正しく設定されているか、入力したパスワードに間違いがないか確認してください。
- DNSサーバの設定に間違いがあることも考えられます。
 - DHCPサーバ機能を利用されているときはプロバイダから受け取っているIP設定の資料をよく確かめ、「第4章 インターネット接続設定」をやり直します。
 - DHCPサーバ機能を利用していないときはプロバイダから受け取っているIP設定の資料をよく確かめ、コンピュータのDNSサーバ設定を確かめてください。
- IPフィルタが設定されていませんか？
 - IPフィルタの設定を確かめてください。

■ IPアドレス、またはパスワードを忘れてしまった

- 本製品の管理者パスワードを忘れてしまい、設定画面にログインできなくなってしまったときは、「1-6 設定の初期化」を参照し、IPアドレス、またはパスワードを工場出荷時の状態に戻します。

■ MACアドレスがわからない

- 本製品のMACアドレスは本体底面のシールに印刷されています。Node ID：の後の12桁の文字列が本製品のMACアドレスです。MACアドレスはLAN側ポートとWAN側ポートで異なりますので注意してください。プロバイダへMACアドレスの申請が必要なときはWAN側ポートのMACアドレスを申請してください。または、本製品のMACアドレス変更機能をお使いください。

デフォルト設定

本製品の工場出荷時のデフォルト設定は以下のようになっています。デフォルト設定の読み込みを行った場合も、以下の設定が読み込まれます。

項目		設定内容
LAN側	IPアドレス	192.168.1.1
	サブネットマスク	255.255.255.0
	デフォルトゲートウェイ	192.168.1.1
DHCPサーバー	DHCPサーバー	有効
	DHCP IP割当て範囲	192.168.1.2～100
	DHCP固定IP割当て	なし
	プライマリDNS	0.0.0.0
	セカンダリDNS	0.0.0.0
WAN側	IPアドレス	0.0.0.0
	サブネットマスク	255.255.255.0
	デフォルトゲートウェイ	0.0.0.0
	サービスタイプ	通常接続
	DHCPクライアント	有効
無線LAN	ESS-ID	default
	チャンネル	10
	WEP	無効
パスワード		password
管理者ログイン許可ネットワーク		LAN側のみ
ドメイン名		未設定
ホスト名		サーバ名
NAT		有効
RIP		無効
ローカルサーバ		なし
バーチャルコンピュータ		なし
ルーティングテーブル		なし
ステートフルパケットインスペクション		無効
URLフィルタ		なし
UPnP機能		有効
VLAN		全ポート グループ1

仕様

C

仕様

◎無線部

＜準拠する標準＞

IEEE 802.11/802.11b、ARIB STD-33A/STD-T66

＜伝送速度＞

11/5.5/2/1Mbps

＜周波数帯＞

2.4～2.497GHz

＜通信距離＞

80m（屋内使用時、見通し距離）

※環境により上記距離を満たせない場合があります。

＜アンテナタイプ＞

ダイバシティアンテナ

◎有線部

＜準拠する標準＞

LAN側IEEE802.3 10BASE-T、IEEE802.3u 100BASE-TX

WAN側IEEE802.3 10BASE-T、IEEE802.3u 100BASE-TX

＜伝送速度＞

LAN側10/100Mbps WAN側10/100Mbps

＜ポート＞

LAN側10BASE-T/100BASE-TX RJ-45×4ポート（Auto MDI/MDI-X）

WAN側10BASE-T/100BASE-TX RJ-45×1ポート

＜ネットワークケーブル＞

10BASE-T カテゴリ3以上ツイストペアケーブル（100m）

100BASE-TX カテゴリ5以上ツイストペアケーブル（100m）

◎共通

<LED>

Power、Status、LAN Link/Act、LAN 100M、WAN、PPPoE、WLAN

<入力電源>

DC12V、1200mA

<消費電力>

最大9.6W

<外形寸法 (W×D×H) >

180 × 29.3 × 150mm

<重量 (本体のみ) >

598g

<環境>

動作温度0～40℃、動作湿度35～85%

<EMI>

VCCI Class B、FCC Class B、CE

Memo

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

Memo

This image shows a single sheet of white paper with horizontal blue or grey ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are approximately 20 lines visible. The paper has a slight shadow on its right side, suggesting it's resting on a surface. There is no handwriting or other markings on the paper.

Memo

[illegible]

Memo

[illegible]

Memo

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

Memo

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

ユーザー登録について

この度は弊社製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。弊社では製品をお買い上げいただいたお客様にユーザー登録をお願いしております。ユーザー登録を行っていただいたお客様には新製品情報、バージョンアップ情報、キャンペーン情報等さまざまな情報を提供させていただきます。また、製品の故障等でユーザーサポートをお受けになるにはお客様のユーザー登録が必要となります。ぜひユーザー登録を行ってくださいますようお願いいたします。

ユーザー登録は下記弊社インターネットホームページ上で受け付けております。ユーザー登録を行って戴いたお客様の中から毎月抽選でプレゼントを差し上げております。

<http://www.planex.co.jp/user/>

弊社へのお問い合わせ

■弊社製品の追加購入

弊社製品のご購入は、販売店様またはPCIダイレクトまで。

ケーブル1本からレイヤ3スイッチまで、お客様が探しているものが見つかります。

〈PCIダイレクト〉

<http://direct.planex.co.jp/>

■製品に関するお問い合わせ

製品購入前のご相談や、ご質問は弊社専任アドバイザーにお任せください。

ネットワーク導入やシステム構築・拡張など、お客様のお手伝いをいたします。

〈ご質問/お見積もりフォーム〉

<http://www.planex.co.jp/lan.shtml>

■技術的なお問い合わせ・修理に関するお問い合わせ

製品購入後のご質問は、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。

豊富な知識をもったサポート技術者が、お客様の問題を解決いたします。

〈お問い合わせフォーム〉

<http://www.planex.co.jp/support/techform/>

受付：24時間

〈電話〉

フリーダイヤル：0120-415977

受付：月～金曜日、10～12時、13～17時

＊祝祭日および弊社規定の休業日を除く

〈FAX〉

ファクス番号：03-5614-1018

受付：24時間

◇お問い合わせ前をお願い

サポートを円滑に行うため、お問い合わせ前に以下のものをご用意ください。

お客様のご協力お願いいたします。

- ・弊社製品の製品型番とシリアルナンバー
- ・ご利用のコンピュータの型番とオペレーティングシステム名 (Windows XP/Meなど)
- ・ご利用のネットワークの環境 (回線の種類やインターネットサービスプロバイダ名など)
- ・ご質問内容 (現在の状態、症状など。エラーメッセージが表示されている場合はその詳細を書きとめてください)

■その他

その他のお問い合わせ先は、弊社ホームページからお確かめください。

プラネックスコミュニケーションズ

<http://www.planex.co.jp/>

質問表

技術的なご質問は、この2ページをコピーして必要事項をご記入の上、下記FAX番号へお送りください。

ブラネックスコミュニケーションズ テクニカルサポート担当 行

FAX : 03-5614-1018

送信日 : _____

会社名			
部署名			
名前			
電 話		F A X	
E-MAIL			

製品名 Product name	ワイヤレス 4ポート ブロードバンドルータ
型番 Product No.	BLW-04FM
製造番号 Serial No.	

① ご使用のコンピュータについて

メーカー	
型番	

② ソフトウェア

ネットワーク OS	バージョン
OS	バージョン

③ 質問内容

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

保証規定

ブラネックスコミュニケーションズ(株)は、本製品についてご購入日より本保証書に記載の保証期間を設けております。

本製品付属の取扱説明書などに従った正常な使用状態の下で、万一保証期間内に故障・不具合が発生した場合、本保証規定に基づき無償修理・交換対応を行います。

ただし、次のような場合には保証期間内であっても有償修理となります。

1. 本保証書がない場合。
2. 本保証書に、ご購入日・お名前・ご購入代理店印の記入がない場合、または字句が改ざんされている場合。
3. 取扱上の誤り、または不当な改造や修理を原因とする故障及び損傷。
4. ご購入後の輸送・移動・落下による故障及び損傷。
5. 火災、地震、落雷、風水害、ガス害、塩害、異常電圧およびその他の天変地異など、外部に原因がある故障および損傷。
6. 他の機器との接続に起因する故障・損傷。

初期不良交換

保証期間発生日より1ヶ月以内の故障に関しては、初期不良交換サービスの対象となります。

お客様より初期不良である旨申告していただき、弊社がその申告現象を確認した場合に限り、初期不良品として新品と交換いたします。

ただし、検査の結果、動作環境や相性を起因とする不具合であった場合には、初期不良交換サービス対象とはなりません。また、当サービスをご利用頂くには、お買い上げ商品の全ての付属品が揃っていることが条件になります。

◎初期不良・修理依頼の手順(センドバック方式)

弊社では、センドバック(先に修理依頼品をお送りいただき、弊社より修理完了品をご返却する)方式による修理対応を行っております。

1. 本製品に故障・不具合が発生した場合、弊社サポートセンターまでご連絡ください。お送り先をご案内させていただきます。

ブラネックスコミュニケーションズ(株) サポートセンター

フリーダイヤル・0120-415977 FAX・03-5614-1018

Web・<http://www.planex.co.jp/support/repair/>

2. ご案内に従って、修理依頼品を弊社リペアセンターまでお送りください。

(誠に勝手ながら、リペアセンターへお送りいただく際の送料はお客様のご負担をお願いいたします。)

3. 当該初期不良・修理品の到着後、初期不良の場合は交換品、修理の場合は修理完了品をお送りいたします。

免責事項

- ・お客様及び第三者の故意または過失と認められる本製品の故障・不具合の発生につきましては、弊社では一切責任を負いません。
- ・本製品の使用及び不具合の発生によって、二次的に発生した損害(事業の中断及び事業利益の損失、記憶装置の内容の変化、消失等)につきましては、弊社では一切責任を負いません。
- ・本製品に装着することにより他の機器に生じた故障・損傷について、弊社では本製品以外についての修理費等は一切保証致しません。

保証書

●弊社の保証規定を必ずご覧下さい●

保証期間 Warranty	西暦 年 月 日 より 1年間
製品名 Product name	ワイヤレス 4ポート ブロードバンドルータ
型番 Product No.	BLW-04FM
製造番号 Serial No.	

フリガナ	
会社名	
部署名	
フリガナ	
お名前	
フリガナ	
ご住所	□ □ □ - □ □ □ □ 都 道 府 県
TEL	
FAX	
メールアドレス	

ご購入代理店名 所在地	
----------------	--

※本保証書は日本国内においてのみ有効です。 This warranty is valid only in Japan.

プラネックスコミュニケーションズ株式会社

BRL-04FM/BLW-04FM マニュアル訂正文

SS Manual No.PHM-02-09-20-TN-BRL/BLW-04FM Version 1.0

このたびは、PCI製品をお買い上げ頂き誠にありがとうございます
付属のユーザーズマニュアルに以下の訂正がございます。

BRL-04FM 41ページ

BLW-04FM 43ページ

「固定IPアドレス割り当て」を選択したときの説明に「サブネットマスク」の項目についての説明が記載されておりました。

「サブネットマスク」

グローバルIPアドレスが1個のみ割り当てられるサービスをご利用の場合は、空欄のままでもかまいません。

複数のグローバルIPアドレスが割り当てられるサービスをご利用の場合は、プロバイダから割り当てられているサブネットマスクを入力します。

今後ともPCI製品をご愛顧いただけますよう、お願い申し上げます。

プラネックスコミュニケーションズ株式会社